

石川県こころの健康センター所報

第 46 号

(令和5年度実績)

石川県こころの健康センター

- 2024 -

目 次

I こころの健康センター概要

1 沿 革	1
2 施設の概況	3
3 組織・機構	4
4 業 務	6

II 令和5年度こころの健康センターの活動概要

1 庶務課業務

(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付	8
(2) 自立支援医療費（精神通院医療）支給認定	9
(3) 精神医療審査会	12

2 相談課業務

(1) 技術指導及び技術援助	13
(2) 教育研修	15
(3) 普及啓発	18
(4) 精神保健福祉相談	21
(5) 組織育成	31
(6) ひきこもり対策推進事業	34
(7) 依存症関連問題指導事業	38
(8) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業	41
(9) 自殺予防対策推進事業	42
(10) 子どもの心のケア推進事業	45
(11) 精神障害者地域生活支援事業	52
(12) 災害時のこころのケア	53

3 支援課（発達障害支援センター）業務

(1) 発達障害児（者）及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援	57
(2) 精神科医による相談事業	60
(3) 青年期グループ活動	61
(4) 就労者グループ活動	61
(5) 親のつどい	61
(6) 関係機関等との調整会議	61
(7) 機関コンサルテーション	62
(8) 個別支援のための調整会議	63
(9) 普及啓発及び研修	64

Ⅲ 資 料

1	精神保健福祉相談状況（電話・来所・訪問）	70
2	普及啓発活動	74
3	関係機関・団体との連携	76
4	集団活動	78
5	こころの健康センター貸出しDVD一覧	79

I こころの健康センター概要

1 沿 革

- 昭和 41 年 10 月 石川県社会福祉会館内に石川県精神衛生センターが開設される。
- 昭和 56 年 11 月 金沢市南新保町ル 3-1（現在地）に新築移転する。
- 12 月 デイ・ケア事業（～平成 25 年度）、乳幼児発達相談事業（～平成 8 年度）を開始する。
- 昭和 57 年 4 月 特定相談指導事業（アルコール関連問題、思春期精神保健に関する相談指導等）を開始する。
- 昭和 58 年 4 月 親子通所センターが石川県中央児童相談所より移管される。
同時に庶務課、相談課、訓練課の課制が施行される。
- 昭和 61 年 4 月 心の健康づくり推進事業を開始する。
- 昭和 63 年 4 月 石川県精神保健センターと名称を変更する。
痴呆性老人通所事業を開始する。（～平成 2 年度）
メンタルヘルス講座を開講する。（～平成 4 年度）
- 平成 元 年 4 月 社会復帰連絡会を開始する。（～平成 5 年度）
- 平成 3 年 4 月 こころの相談ダイヤル事業を開始する。
- 平成 6 年 4 月 こころの健康フェスタ開催事業を開始する。（～平成 10 年度）
- 平成 7 年 7 月 石川県精神保健福祉センターと名称を変更する。
- 平成 8 年 10 月 ピア・カウンセリング推進事業を開始する。（～平成 18 年度）
- 平成 13 年 4 月 石川県こころの健康センターと名称を変更する。
ひきこもり当事者グループ（悠友クラブ）を開始する。
ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業を開始する。
- 平成 14 年 4 月 精神医療審査会、通院患者の公費負担及び精神障害者保健福祉手帳に関する業務が石川県健康福祉部障害保健福祉課より移管される。
ひきこもり家族交流会を開始する。

- 平成 14 年 10 月 住所表示が金沢市鞍月東 2 丁目 6 番地に変更される。
- 平成 17 年 4 月 発達障害支援センターが設置される。
- 平成 18 年 4 月 親子通所センターが閉所される。(訓練課を廃止し、支援課を新設)
- 11 月 自死遺族交流会 (J 交流会) を開始する。
- 平成 20 年 9 月 石川県精神科救急情報センター「いしかわこころの救急ダイヤル」事業を開始する。
- 平成 20 年 9 月 いしかわ子どもの心のケアネットワーク事業を開始する。
- 平成 21 年 5 月 ひきこもり地域支援センターが設置される。
- 平成 21 年 9 月 こころの緊急支援事業 (CRT) を開始する。(～平成 26 年度)
- 平成 22 年 6 月 依存症教室を開始する。
- 平成 23 年 3 月 「こころの健康相談統一ダイヤル」を開始する。
- 平成 24 年 「かけがえのない命をまもるネットワークいしかわ」を設立
- 平成 27 年 6 月 依存症家族交流会を開始する。
- 平成 27 年 7 月 依存症再発予防プログラムを開始する。
- 平成 31 年 4 月 石川県依存症相談拠点に選定される。
- 令和 3 年 2 月 「こころの相談ダイヤル」が 24 時間対応となる。
- 令和 6 年 1 月 令和 6 年能登半島地震の状況に鑑み「石川こころのケアセンター」を設置し、被災に関するこころの悩みについての電話相談事業を開始する。
- 2 月 「石川こころのケアセンター」において、支援者専用の電話相談事業を開始する。

2 施設の概況

(1) 土地

所在地 石川県金沢市鞍月東2丁目6番地 (〒920-8201) TEL 076(238)5761

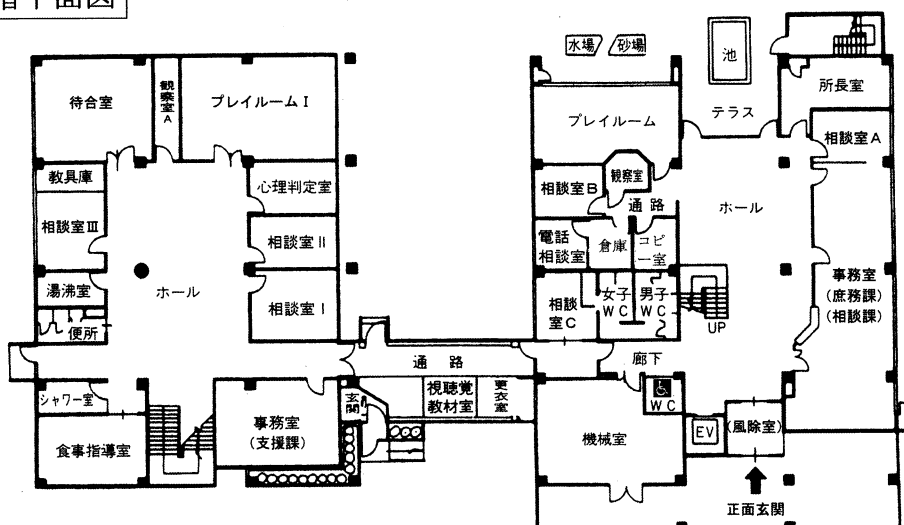
敷地 3,400.14m²

(2) 建地

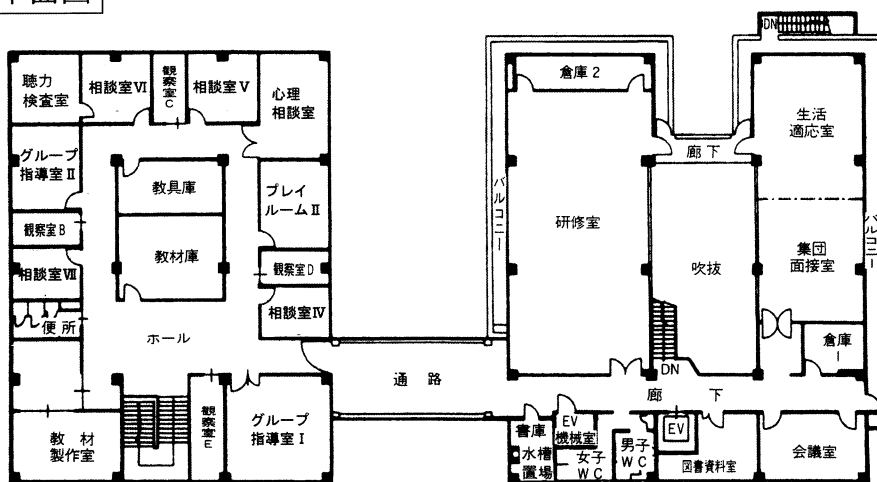
鉄筋コンクリート2階寄棟造 延1,761.26m²

《館内平面図》

1階平面図



2階平面図

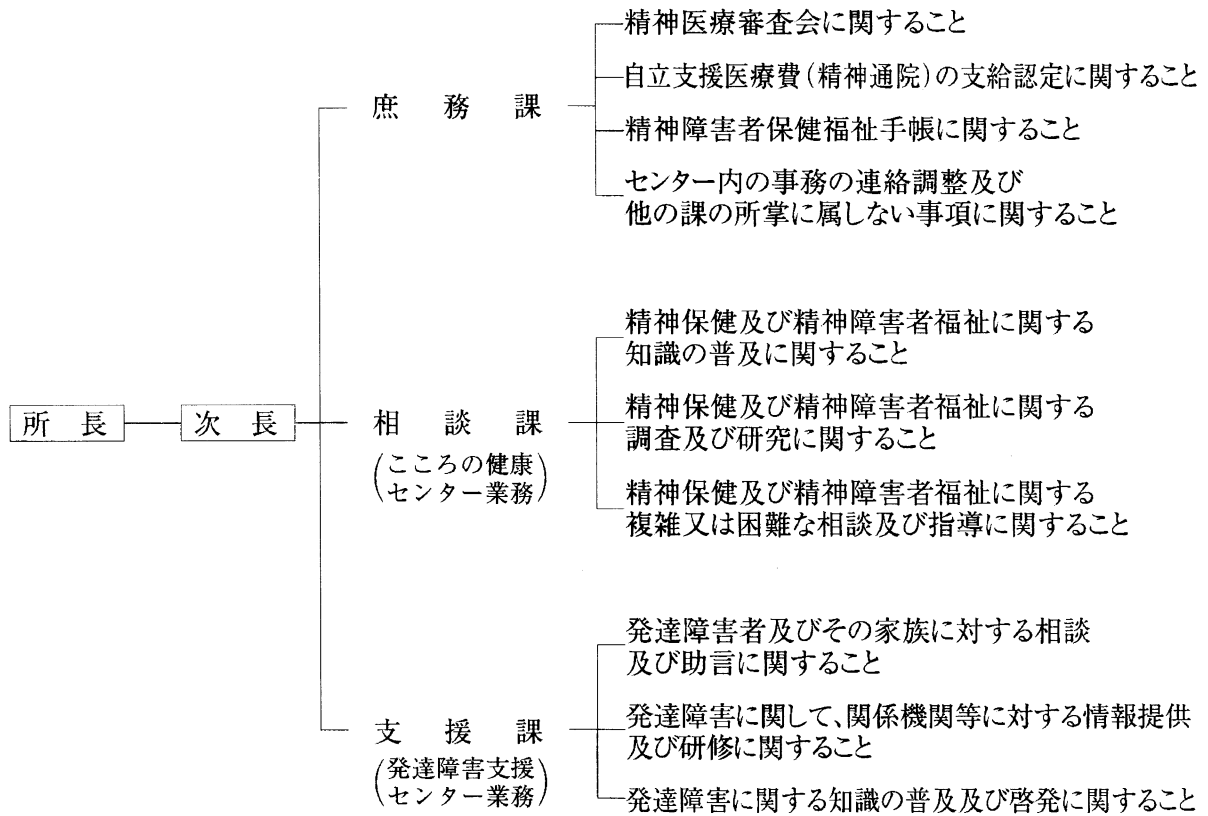


(発達障害支援センター)

(こころの健康センター)

3 組織・機構

(1) 機構



(2) 職種別職員数

(令和6年8月1日現在)

職 種		医 師	保 健 師	助 産 師	看 護 師	精 神 保 健 福 祉 士	福 祉 指 導 員	心 理 判 定 員	電 話 相 談 員	事 務 職 員	事 務 補 助 員	計
職員	常 勤		3			2	1	6		4		16
	兼 務	1										1
	再任用(フル)			1				1				2
	再任用(31h)				1							1
任用 会計 年度 職員	常勤的非常勤							1		2	1	4
	短時間非常勤 (29h)										1	1
	短時間非常勤 (29h未満)							1	10			11
計		1	3	1	1	2	1	9	10	6	2	36

(3) 課別職員数

(令和6年8月1日現在)

課 名	職 種	職 員				会計年度任用職員			計
		常 勤	兼 務	再任用 (フル)	再任用 (31h)	常勤的 非常勤	短時間 非常勤 (29h)	短時間 非常勤 (29h未満)	
所 長	医 師		1						1
次 長 兼 庶務課長	事 務 職 員	1							1
庶務課	助 産 師			1					8
	事 務 職 員	3				2			
	事 務 補 助 員					1	1		
相談課	保 健 師	2							19
	看 護 師								
	精神保健福祉士	2							
	心 理 判 定 員	4						1	
	電 話 相 談 員							10	
支援課	保 健 師	1							7
	看 護 師				1				
	福 祉 指 導 員	1							
	心 理 判 定 員	2		1		1			
計		16	1	2	1	4	1	11	36

4 業 務

I 庶務課

平成 14 年度に石川県健康福祉部障害保健福祉課から移管された次の業務を行っている。

- (1) 精神医療審査会に関する事務
- (2) 自立支援医療費（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳に関する事務

II 相談課

相談課は精神保健福祉センター業務を担い、「精神保健福祉センター運営要領」（平成 8 年 1 月 19 日健医発第 57 号厚生省保健医療局長通知）により、次の業務を行っている。

(1) 企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、県本庁及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具申等をしている。

(2) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町及び関係諸機関に対し、専門的立場から、技術指導及び技術援助を実施している。

(3) 人材育成

保健所、市町、福祉事務所その他の関係機関で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修を実施している。

(4) 普及啓発

県域規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行っている。

(5) 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究を実施するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料を収集整備し、保健所、市町等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供している。

(6) 精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを行っている。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、認知症等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施している。またこれらの相談指導等を行うため、必要に応じて関係諸機関の協力を求めている。

(7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るために、地域住民による家族会等の関係団体の育成に努め、活動を支援している。

Ⅲ 支援課（発達障害支援センター）

支援課は発達障害者支援センター業務を担い「発達障害者支援センター運営事業の実施について」（平成25年7月1日障発0701第1号障害福祉課長通知）により、次の業務を行っている。

- (1) 発達障害児(者)及びその家族等に対する相談支援
- (2) 発達障害児(者)及びその家族等に対する発達支援
- (3) 発達障害児(者)及びその家族等に対する就労支援
- (4) 関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修
(関係施設及び関係機関等との連携)

Ⅱ 令和5年度こころの健康センターの活動概要

1 庶務課業務

(1) 精神障害者保健福祉手帳の交付

ア 制度の概要

一定の精神障害者の状態にあることを証する手段となり、手帳の交付を受けた者に対し、各方面からの協力により各種の支援策が高じられることを促進し、もって精神障害者の社会復帰及び自立と社会参加の促進を図ることを目的として、平成7年に創設された。

イ 対象者

精神疾患（知的障害を除く）を有する者のうち、精神障害のため長期にわたり日常生活又は社会生活への制約がある者。

ウ 障害等級

- 1級 日常生活の用を弁ずることを不能ならしめる程度のもの
- 2級 日常生活が著しい制限を受けるか、又は日常生活に著しい制限を加えることを必要とする程度のもの
- 3級 日常生活若しくは社会生活が制限を受けるか、又は日常生活若しくは社会生活に制限を加えることを必要とする程度のもの

エ 交付手続き

申請書に写真（上半身）と（ア）又は（イ）の書類を添えて、居住地を管轄する市町長を経て、県知事に提出する。

（ア） 医師の診断書

精神障害に係る初診日から6か月を経過した日以後に作成されたもの

（イ） 年金証書等

精神障害を支給事由とする障害者年金または特別障害給付金を現に受給していることを証する書類の写し

オ 審査及び判定

診断書添付による申請の場合、手帳の交付の可否及び障害等級の判定については、精神保健指定医を委員とする石川県自立支援医療（精神通院）等判定会議で行われる。委員は7名（各会議に4名出席で開催）で、令和5年度は21回開催した。

カ 手帳の有効期間

2年間 ※更新申請は有効期限の3か月前から可能

キ 手帳に基づく各種支援策

税制上の優遇措置や生活保護の障害者加算、公共交通機関の運賃割引、公共施設の利用料割引などの支援が受けられる。

表1 精神障害者保健福祉手帳の交付状況

(単位：件)

区 分		計	新 規		更 新				
			診断書	年金	診断書	年金			
令和 元年度	申請	4,787	2,524	2,263	866	418	1,658	1,845	
	交付	1級	269	130	139	31	31	99	108
		2級	3,974	2,055	1,919	693	352	1,362	1,567
		3級	513	332	181	137	29	195	152
		計	4,756	2,517	2,239	861	412	1,656	1,827
令和 2年度	申請	4,842	2,543	2,299	841	315	1,702	1,984	
	交付	1級	304	125	179	37	37	88	142
		2級	3,986	2,062	1,924	669	244	1,393	1,680
		3級	518	345	173	129	30	216	143
		計	4,808	2,532	2,276	835	311	1,697	1,965
令和 3年度	申請	5,574	2,993	2,581	1,019	437	1,974	2,144	
	交付	1級	280	122	158	31	30	91	128
		2級	4,653	2,481	2,172	844	354	1,637	1,818
		3級	605	386	219	142	45	244	174
		計	5,538	2,989	2,549	1,017	429	1,972	2,120
令和 4年度	申請	5,660	2,859	2,801	944	385	1,915	2,416	
	交付	1級	332	118	214	27	24	91	190
		2級	4,688	2,311	2,377	766	331	1,545	2,046
		3級	607	423	184	145	24	278	160
		計	5,627	2,852	2,775	938	379	1,914	2,396
令和 5年度	申請	6,048	3,141	2,907	1,054	379	2,087	2,528	
	交付	1級	260	102	158	20	22	82	136
		2級	5,088	2,600	2,488	899	316	1,701	2,172
		3級	660	432	228	130	32	302	196
		計	6,008	3,134	2,874	1,049	370	2,085	2,504

(2) 自立支援医療費(精神通院医療)支給認定

ア 制度の概要

障害者等が、その心身の障害の軽減を図り、自立した日常生活を営むために必要な医療を受けるに際して、その医療費の一部を公費で負担する制度である。即ち、医療費に対して各医療保険制度が適用された後、患者の自己負担額を医療費の1割とし(ただし、世帯の所得に応じて負担上限月額の設定あり)、残りを公費負担とする。

イ 対象者

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第5条に定める精神疾患を有する者で、通院による精神医療を継続的に必要とする程度の病状にある者。また、症状が殆ど消失している者であっても、障害の程度が軽減している状態を維持し、又は障害の再発を予防するために入院によらない治療を続ける必要がある場合も対象となる。

ウ 申請手続き

申請書に(ア)又は(イ)の場合における書類を添えて、居住地を管轄する市町長を経て、県知事に提出する。

(ア) 支給認定の申請のみを行う場合

自立支援医療（精神通院医療）の診断書、被保険者証など医療保険の加入関係を示すもの、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

※高額治療継続者については「重度かつ継続」に関する意見書

(イ) 手帳の新規交付又は再交付の申請と併せて支給認定の申請を行う場合

精神障害者保健福祉手帳用の診断書及び治療の投薬内容がわかる手帳用診断書投薬内容届、被保険者証など医療保険の加入関係を示すもの、受診者の属する「世帯」の所得の状況等が確認できる資料

※高額治療継続者については「重度かつ継続」に関する意見書

エ 支給認定

精神通院医療の要否については、石川県自立支援医療（精神通院）等判定会議で判定が行われ、県知事はその結果を受けて支給認定を行うかどうかを決定する。

オ 支給認定の有効期間

1年間 ※更新申請は有効期限の3か月前から可能

カ 受給者証の交付

支給認定が行われた申請者に対し、指定医療機関や自己負担上限月額、有効期間等を記載した自立支援医療受給者証（精神通院）を交付する。

表2 自立支援医療費（精神通院医療）の支給認定状況 (単位：件)

年度	計	保険者別内訳				
		被用者 保険本人	被用者 保険家族	国民健康 保険	生活 保護者	その他
令和元	18,135	4,068	3,704	7,868	1,781	714
令和2	18,800	4,213	3,758	7,909	2,559	361
令和3	17,771	4,096	3,590	7,472	2,341	272
令和4	19,347	4,671	3,884	7,844	2,616	332
令和5	19,329	4,764	3,854	7,702	2,653	356

表3 手帳所持者数及び支給認定者数の各年度末推移

年 度	手 帳 所 持 者 数				支給認定者数
	1 級	2 級	3 級	計	
平成26	532	5,070	814	6,416	14,074
平成27	538	5,475	911	6,924	14,577
平成28	518	5,964	999	7,481	15,154
平成29	527	6,526	1,031	8,084	15,656
平成30	542	7,120	1,024	8,686	16,220
令和元	585	8,081	1,104	9,770	18,053
令和2	567	8,111	1,074	9,752	18,813
令和3	587	8,601	1,135	10,323	17,642
令和4	591	9,061	1,197	10,849	18,255
令和5	589	9,741	1,276	11,606	19,157

表4 市町別手帳所持者数及び支給認定者数（令和6年3月31日現在）

区 分		加賀市	小松市	能美市	川北町	白山市	野々市市	金沢市	かほく市	津幡町	内灘町
手帳	1級	29	53	22	3	44	24	297	11	17	11
	2級	453	733	375	40	968	438	4,632	295	281	231
	3級	93	144	62	8	142	81	491	36	29	30
	計	575	930	459	51	1,154	543	5,420	342	327	272
通 院		1,033	1,485	770	68	1,698	870	8,727	611	544	411
区 分		羽咋市	志賀町	宝達志水町	七尾市	中能登町	輪島市	穴水町	能登町	珠洲市	合計
手帳	1級	9	7	10	20	2	8	2	14	6	589
	2級	145	111	85	421	134	161	55	122	61	9,741
	3級	19	13	12	57	25	16	-	12	6	1,276
	計	173	131	107	498	161	185	57	148	73	11,606
通 院		331	236	199	982	306	357	151	223	155	19,157

(3) 精神医療審査会

ア 設置の根拠法令

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 12 条

イ 審査会の業務

病院からの次の病状報告や精神障害者の退院請求等に対して入院継続の要否又は処遇の適否を審査する。

(ア) 措置入院者の定期病状報告、医療保護入院者の定期病状報告、医療保護入院者退院支援審議記録、医療保護入院者の入院届、入院診療計画書

(イ) 入院中の者又はその家族等からの退院請求又は処遇改善の請求

ウ 委員構成

委員 15 人（医療委員 9 人、法律家委員 3 人、有識者委員 3 人）

予備委員 6 名（医療予備委員 2 名 法律家予備委員 2 名 有識者予備委員 2 名）

エ 合議体

審査会には 5 人で構成する合議体を 3 つ設置し、審査は月 1 回行う。

オ 令和 5 年度の開催実績

審査会 12 回、全体会議 1 回

表 5 精神医療審査会の審査状況

年 度	退院等の請求			措置入院者の定期病状報告		医療保護入院者の定期病状報告		医療保護入院者の入院届		審査件数合計	
	審査件数	面接件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等	審査件数	入院形態の変更等
平成 26	29	29	—	25	—	1,294	—	2,683	—	4,031	—
平成 27	39	37	—	27	—	1,235	—	2,833	—	4,134	—
平成 28	25	23	—	26	—	1,260	—	2,869	—	4,180	—
平成 29	32	30	2	28	—	1,214	—	2,877	—	4,151	2
平成 30	27	23	4	34	—	1,164	—	2,873	—	4,098	4
令和 元	21	20	3	17	—	1,174	—	3,027	—	4,239	3
令和 2	25	24	5	32	—	1,205	—	2,855	—	4,117	5
令和 3	29	26	5	20	—	1,230	—	2,787	—	4,066	5
令和 4	33	32	1	19	—	1,213	—	2,832	—	4,097	1
令和 5	34	35	3	12	—	1,215	—	2,892	—	4,153	3

注)入院形態の変更等の欄は、審査会において退院が適当又は他の入院形態が適当との意見が示された件数

2 相談課業務

(1) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所及び関係機関に対し職員等を派遣するなど専門的な立場から技術援助を行っている。

令和5年度の技術援助回数は562回で、支援内容としては、関係機関との連絡調整が215回（38.2%）と一番多かった（表1）。

保健所（県保健福祉センター及び金沢市福祉健康センター、県外保健所、以下「保健所」とする。）には59回（10.5%）で、保健所以外の行政・教育・福祉等の関係機関には503回（89.5%）であった（表2、表3）。

表1 技術援助回数

区分	計	事例検討会	指相談訪問指導	活知識普及・保健活動	参会議への画	連関係機関との連絡調整	動患者クラブ活動等の援助	・学生教育実習	そ情報提供・他
合計	562	5	73	37	83	215	0	7	142

ア 保健所

令和5年度における保健所からの要請による技術援助は59回で、関係機関との連絡調整が26回と一番多く、次いで相談訪問指導が12回であった（表2）。

表2 保健所への技術援助及び技術指導回数

区分	計	事例検討会	相談訪問指導	知識普及・保健活動	会議への参画	関係機関との連絡調整	患者クラブ活動等の援助	学生教育・実習	情報提供・その他
南加賀保健福祉センター	18	0	8	1	3	3	0	0	3
石川中央保健福祉センター	17	1	2	1	5	6	0	0	2
能登中部保健福祉センター	8	0	0	0	1	7	0	0	0
能登北部保健福祉センター	7	0	1	0	1	5	0	0	0
金沢市福祉健康センター	8	0	1	0	1	5	0	0	1
富山市保健所	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	59	1	12	2	11	26	0	0	7

イ 関係機関（保健所を除く）

令和5年度の保健所以外の行政や教育、医療機関等の関係機関への技術援助は503回で、関係機関との連絡調整が189回、次いで情報提供・その他が135回であった（表3）。

関係機関の区分別では、国・県が239回と一番多く、次いで司法への技術援助が64回、医療が49回の順になっている（表3）。

表3 関係機関（保健所を除く）への技術援助及び技術指導回数

区 分	計	事 例 検討会	相 談 訪 問 指 導	知 識 普 及 ・ 保 健 活 動	会 議 へ の 参 画	関 係 機 関 と の 連 絡 調 整	患 者 ク ラ ブ 活 動 等 の 支 援	学 生 教 育 ・ 実 習	情 報 提 供 ・ そ の 他
国 ・ 県	239	1	13	10	36	102	0	2	75
市 町	48	1	10	7	2	17	0	0	11
医 療	49	1	13	0	0	23	0	0	12
福 祉	20	0	6	0	4	5	0	0	5
教 育	27	0	12	5	0	2	0	4	4
労 働	3	0	0	0	1	1	0	0	1
各種精神保健団体	9	0	0	3	3	2	0	0	1
障害者支援施設等	20	1	1	1	0	12	0	0	5
司 法	64	0	5	6	26	17	0	1	9
そ の 他	24	0	1	3	0	8	0	0	12
合 計	503	4	61	35	72	189	0	7	135

(2) 教育研修

令和5年度は、保健所および精神保健福祉に関する諸機関の職員を対象にした研修会を15回開催した。

ア 精神保健福祉医療担当者研修会

地域における精神保健福祉医療業務が円滑に推進されるように、保健福祉医療関係機関の職員で精神保健福祉の担当として初任者を対象に、相談に係る基礎知識の習得や技術の向上を図ることを目的に研修を実施した。

日時	内 容	参加数
令和5年6月21日 (水)	講義①「精神障害者に関する基礎知識と支援～うつと自殺対策を中心に～」 こころの健康センター 所長 角田 雅彦	36 人
	講義②「高次脳機能障害の相談について」 高次脳機能障害相談・支援センター 担当課長 原 みどり	
	講義③「精神保健福祉センターにおける支援（１）」 こころの健康センター 相談課職員	
	講義④「精神保健福祉センターにおける支援（２）」 こころの健康センター 相談課職員	
	講義⑤「発達障害支援センターの活動概要と体制整備について」 発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾	
	講義⑥「精神保健福祉法における緊急対応について」 ・法第23条対応について ・措置入院及び緊急措置入院にかかる診察等について 石川県障害保健福祉課医療支援グループ 主事 穴戸 宏充	
	講義⑦「精神保健福祉法の改正について」 石川県障害保健福祉課医療支援グループ 主事 穴戸 宏充	
令和5年6月27日 (火)	講義①「ひきこもりとその対策について」 こころの健康センター 主任主事 竹 昌江	31 人
	講義②「精神障害者地域生活支援～精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」 こころの健康センター 健康推進専門員 濱松 溪子	
	講義③「県保健福祉センターにおける精神保健福祉」 能登北部保健福祉センター 健康推進課 主幹 吉岡 智子	
	講義④「地域活動支援センターの取り組み」 ピアサポート北のと 相談支援専門員 多木 和也	
	グループワーク 「日頃の相談支援活動から思うこと」	

イ 石川県災害派遣精神医療チーム（DPAT）研修会（詳細はP53～54参照）

（ア）講義及び机上訓練 開催回数 1回、参加者（机上訓練） 24名

（イ）緊急訓練 開催回数 2回、参加者 284名

ウ ひきこもり対策推進事業（詳細はP34～37参照）

（ア）ひきこもり対策地域ネットワーク会議 開催なし

（イ）ひきこもり相談・支援者研修会 開催回数3回、参加者133人

エ 依存症関連問題指導事業（詳細はP38～40参照）

依存症研修会 開催なし

オ 自殺予防対策推進事業（詳細はP42～44参照）

（ア）包括的支援のための多職種事例検討会 令和6年（2024年）能登半島地震の影響により開催せず

（イ）ゲートキーパー指導者研修会 開催回数1回、参加者数68人

（ウ）救急告示医療機関職員等に対する研修会 令和6年（2024年）能登半島地震の影響により開催せず

カ 子どもの心のケア推進事業（詳細はP45～51参照）

（ア）子どもの心の支援者研修会

a 子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー

開催回数4回、参加者数 642人

上記の内1回は、令和6年（2024年）能登半島地震発生後に緊急開催した

b 発達障害等早期支援関係者セミナー

令和6年（2024年）能登半島地震の影響により開催せず

（イ）子どものこころの勉強会 ※支援者事例検討会から名称を変更した

開催回数1回、参加者数 39人

令和6年（2024年）能登半島地震の影響により2回目は開催せず

キ 災害時のこころのケア (詳細はP53～56参照)

かかりつけ医スキルアップ研修

開催回数1回、参加者74名

ク 精神障害者地域生活支援事業

ピアサポーター養成研修会

令和5年度より石川県障害者ピアサポート研修開催に伴い開催せず

(3) 普及啓発

一般県民等を対象として、精神保健福祉や心の健康に関する理解を深め、地域社会における精神保健福祉活動の推進を図ることを目的として、講演活動や各種団体などが開催する研修会への講師派遣、「こころの健康センターだより」等の発行やホームページの作成、マスコミを通じての広報活動等、普及啓発を実施した。また、災害時のこころのケアについてリーフレットやチラシの作成、ホームページの作成を行った。

ア 公開講演会

- (ア) こころの健康づくり講演会（自殺予防対策推進事業（P42）に掲載）
- (イ) ひきこもり公開講演会（ひきこもり対策推進事業（P37）に掲載）
- (ウ) 依存症教室（依存症関連問題指導事業（P38）に掲載）

イ 講師を派遣した講演会

	依頼機関名	内 容	回数	参加人数
県	石川県障害保健福祉課	精神障害者支援の障害特性と支援技法について	1	66人
	石川県生活安全課	メンタルヘルスについて	1	50人
	石川県自治研修センター	新任課長補佐研修	1	38人
	石川県自治研修センター	新任係長研修	1	150人
	石川県市町村職員研修所	新任課長補佐研修	1	40人
	石川県消防学校	メンタルヘルスについて	2	85人
	石川中央保健福祉センター	若い世代のいのちを支える研修会	1	21人
	石川県労働委員会	メンタルヘルス不調者の理解と対応	1	21人
市町	小松市いきいき健康課	将来あるかけがえのない命を守るために	1	93人
	白山市子ども総合相談室	子どもたちのいのちを守るために私たちができること	1	39人
	野々市市健康推進課	こころの健康教室	1	4人
教育	金沢大学	精神看護技術演習 講義	1	80人
	石川県立総合看護専門学校	気分障害について/ゲートキーパー講座	1	20人
	小松市教育センター	不登校の児童生徒の理解と対応	1	37人
	金沢市立北鳴中学校	思春期の心について	1	35人
国	金沢保護観察所	薬物依存について	1	7人
	能美市地区更生保護女性会	能美地区更生保護女性自主研修会	1	150人

	依頼機関名	内 容	回数	参加人数
そ の 他	養護教員健康相談活動事例研究会	県内高校養護教諭研修会	1	22人
	かほく市自立支援協議会	スキルアップ研修	1	7人
	チャイルドライン	チャイルドライン受け手養成講座	1	10人
	就労支援事業所すまいるはうす	アルコール依存に関する研修会	1	14人
	蓮覚寺	ゲートキーパー研修会	1	30人
計			23	1019人

ウ 障害者ふれあいフェスティバルにおける相談コーナーへの出展

心の健康に関する正しい知識について普及啓発することを目的に、障害者ふれあいフェスティバルにおいて相談コーナーへ出展した。

日 時 令和5年9月24日（日）10:00～16:00
場 所 石川県産業展示館4号館
内 容 パネル掲示とパンフレットの展示

エ 普及啓発資料

こころの健康センターの事業の紹介や精神保健の動向について発行した。

媒 体	内 容	発行部数
こころの健康センターだより	第94号 特集1「アンガーマネジメント」 特集2「支援者のための心の健康」	1000部

オ 普及啓発教材の貸出

病院や地域関係機関にDVD、パネル等の貸し出しを行っている。令和5年度は2件の依頼があった。

カ 関係機関情報の作成

石川県内の精神保健福祉に関する社会資源の情報をまとめ、ホームページに掲載した。
アドレス <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/fukusi/kokoro-home/kokoro/shiryou.html>

キ 災害時のこころのケアに関する普及啓発（詳細はP56参照）

(4) 精神保健福祉相談

令和5年度の精神保健福祉相談延件数は、11,190件で、電話相談が10,452件(93.4%)、来所相談が738件(6.6%)であった。来所相談の実件数は175件であった。そのうち新規来所相談は89件であった。また訪問等は、39件実施した(表1、表2)。

性別では、「男」が4,717件(42.2%)、「女」が6,473件(57.8%)であった(表1)。

年齢別では、「50～59歳」が1,962件(17.5%)と最も多く、次いで「40～49歳」が1,943件(17.4%)、「60～69歳」が1,636件(14.6%)となっている(表3、図1)。

相談区分では、「心の健康づくり」が6,128件(54.8%)で最も多く、次いで「社会復帰」が3,454件、「その他」が793件の順であった。また相談区分をキーワードにより再掲(複数回答)すると、ひきこもりが534件と最も多く、次いで発達障害が283件となっている(表4)。

ア 電話相談

電話相談は、当センターへの電話相談及び専用電話「こころの相談ダイヤル」への相談を合わせたもので、令和5年度の相談件数(延件数)は10,452件であり、性別で見ると男性4,175件(39.9%)、女性6,277件(60.1%)と、女性の方が2,102件多かった(表1)。

年齢別では、「50～59歳」が1,886件(18.0%)と最も多く、次いで「40～49歳」が1,857件、「60～69歳」が1,620件の順であった(表3、図1)。

相談区分別では、「心の健康づくり」が5,636件(53.9%)で最も多く、次いで「社会復帰」が3,413件、「その他」が773件の順であった。また相談区分をキーワードにより再掲(複数回答)すると、「ひきこもり」が195件(1.9%)と最も多く、次いで「災害」が180件であった(表4)。

内容別相談件数では「日常生活に関する心配・不安」が3,843件(36.8%)と最も多く、次いで「精神疾患に関する問題」1,448件(13.9%)、「家庭内の問題」1,324件(12.7%)の順であった(表6、図2)。

電話相談における対応状況としては、「傾聴・助言」が9,380件(89.7%)と最も多く、次いで「他機関紹介」が690件(6.6%)、「その他」が274件(2.6%)であった(表6)。

イ 来所相談

来所相談は、原則として予約制で、相談課職員が対応しており、必要に応じ所長(精神科医)または嘱託医(精神科医・小児科医)の診察を実施している。

令和5年度の来所相談件数(延)は738件であった(表1)。

年齢別では、「30～39歳」が218件(29.5%)と最も多く、次いで「20～29歳」が189件、「20歳未満」が123件の順であった(表3、図1)。

相談区分別では、「心の健康づくり」が492件（66.7%）で最も多く、次いで「思春期」が61件、「ギャンブル」が55件の順であった。相談区分をキーワードにより再掲（複数回答）すると、「ひきこもり」が339件（45.9%）と最も多く、次いで「発達障害」が114件であった（表4）。

内容別相談件数では、「ひきこもり」が238件（32.2%）と最も多く、次いで「暴力」が82件で、「性格・行動上の悩み」が70件の順であった（表5、図2）。

新規来所相談の来所経路は、男女ともホームページや口コミにより「直接」来所してくる場合が44件（49.4%）と一番多い。次いで「保健所」が14件、「施設・学校」が9件、「その他」が7件の順であった（表7）。

来所相談における対応状況としては、「助言」が599件（81.2%）と最も多かった。来所者への診察92件（うち「診断書発行」は9件）、検査8件を実施している（表8）。また相談結果の紹介先として、「医療機関」が55件であった（表9）。

来所相談における診断状況をみると、「不明」が246件（33.3%）であった。診断された方は、「心理的発達の障害」が102件（13.8%）と最も多く、次いで「気分（感情）障害」が99件（13.4%）、「神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」が46件（6.2%）の順であった（表10）。

表1 精神保健福祉相談実施状況

	男		女		合計	
	件数	%	件数	%	件数	%
電話相談	4,175	39.9%	6,277	60.1%	10,452	93.4%
来所相談	542	73.4%	196	26.6%	738	6.6%
実件数	123	70.3%	52	29.7%	175	1.6%
(新規)	58	65.2%	31	34.8%	89	0.8%
継続相談	419	74.4%	144	25.6%	563	5.0%
計	4,717	42.2%	6,473	57.8%	11,190	100.0%

※件数は延件数

表2 精神保健福祉相談件数の推移

年度	電話相談	来所相談	計	訪問指導
R1	8,355	1,339 (実 150)	9,694	30
R2	9,781	1,229 (333)	11,010	109
R3	18,661	1,554 (268)	20,215	166
R4	22,892	991 (198)	23,883	30
R5	10,452	738 (175)	11,190	39

※件数は延件数

※訪問指導は来所相談の内数

表3 年齢別相談件数

年齢区分	相 談 区 分				合 計	
	電 話 相 談		来 所 相 談			
	件数	%	件数	%	件数	%
20歳未満	252	2.4%	123	16.7%	375	3.4%
20～29歳	927	8.9%	189	25.6%	1,116	10.0%
30～39歳	1,205	11.5%	218	29.5%	1,423	12.7%
40～49歳	1,857	17.8%	86	11.7%	1,943	17.4%
50～59歳	1,886	18.0%	76	10.3%	1,962	17.5%
60～69歳	1,620	15.5%	16	2.2%	1,636	14.6%
70～79歳	159	1.5%	17	2.3%	176	1.6%
80歳以上	52	0.5%	0	0.0%	52	0.5%
不 明	2,494	23.9%	13	1.8%	2,507	22.4%
合 計	10,452	100.0%	738	100.0%	11,190	100.0%

※件数は延件数

図1 精神保健福祉相談における年齢別内訳

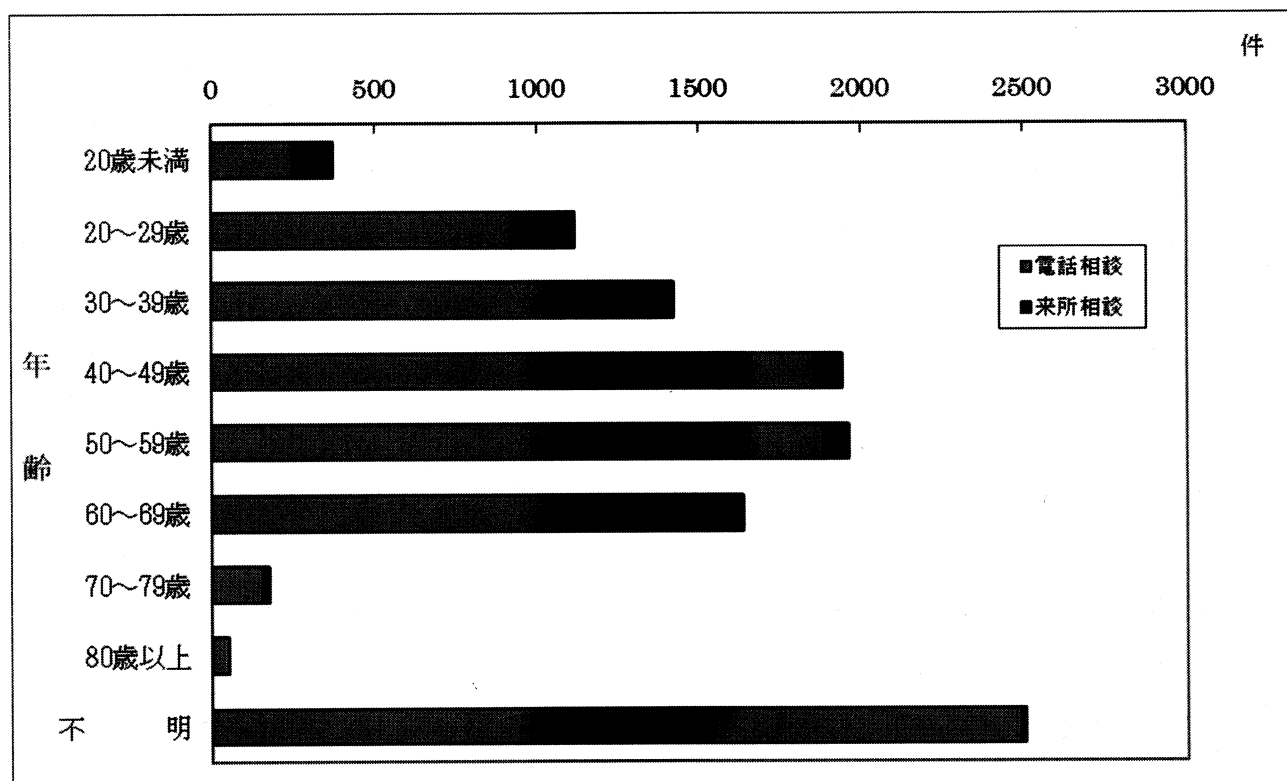


表4 相談区分別内訳

相談区分	令和5年度				令和4年度	
	電話相談	来所相談	(新規)※	合計	相談合計	
老人精神保健	57	0	0	57	103	
社会復帰	3,413	41	1	3,454	3,760	
アルコール	63	19	3	82	76	
薬物	16	15	3	31	18	
ギャンブル	49	55	11	104	105	
ゲーム	4	0	0	4	23	
思春期 ※※	134	61	16	195	227	
心の健康づくり	5,636	492	48	6,128	17,520	
うつ・うつ状態	299	33	4	332	567	
摂食障害	5	2	0	7	35	
てんかん	3	0	0	3	1	
その他	773	20	3	793	1448	
計	10,452	738	89	11,190	23,883	
再掲 (*)	ひきこもり	195	339	6	534	531
	発達障害	169	114	5	283	203
	自殺	160	60	18	220	373
	(再)自死遺族	23	48	13	71	111
	犯罪被害	1	0	0	1	0
	災害	180	7	3	187	0

注：メール相談を除く

※ 来所相談の（新規（初めて来所したもの））は内数

※※思春期は、12歳～18歳の者

* 再掲は、複数の区分に該当する場合は、それぞれに計上

表5 内容別相談件数

相 談 内 容	相 談 区 分				合 計	
	電 話 相 談		来 所 相 談		件数	%
	件数	%	件数 (実)	%		
経 済 ・ 貧 困 問 題	81	0.8%	3 (2)	0.4%	84	1%
不 登 校 ・ 学 校 不 適 応	94	0.9%	50 (15)	6.8%	144	1%
ひ き こ も り	98	0.9%	238 (39)	32.2%	336	3%
非 行 ・ 反 社 会 的 問 題	5	0.0%	0 (0)	0.0%	5	0%
暴 力	55	0.5%	82 (19)	11.1%	137	1%
家 庭 内 の 問 題	1,324	12.7%	46 (12)	6.2%	1,370	12%
出 産 ・ 育 児 上 の 悩 み	38	0.4%	0 (0)	0.0%	38	0%
更 年 期 の 悩 み	11	0.1%	0 (0)	0.0%	11	0%
高 齢 者 の 問 題	44	0.4%	0 (0)	0.0%	44	0%
仕 事 ・ 職 場 の 悩 み	1,122	10.7%	27 (6)	3.7%	1,149	10%
身 体 上 の 悩 み	188	1.8%	0 (0)	0.0%	188	2%
摂 食 障 害	9	0.1%	2 (1)	0.3%	11	0%
性 格 ・ 行 動 上 の 悩 み	182	1.7%	70 (12)	9.5%	252	2%
対 人 関 係 上 の 悩 み	633	6.1%	19 (1)	2.6%	652	6%
ア ル コ ー ル 問 題	63	0.6%	19 (5)	2.6%	82	1%
薬 物 問 題	15	0.1%	15 (5)	2.0%	30	0%
ギ ャ ン ブ ル 問 題	47	0.4%	55 (16)	7.5%	102	1%
アルコール・薬物・ギャンブル以外の依存	22	0.2%	15 (4)	2.0%	37	0%
性 について の 悩 み	45	0.4%	8 (1)	1.1%	53	0%
日常生活に関する心配・不安	3,843	36.8%	69 (27)	9.3%	3,912	35%
精神疾患に関する問題	1,448	13.9%	11 (5)	1.5%	1,459	13%
情 報 提 供	109	1.0%	0 (0)	0.0%	109	1%
そ の 他	976	9.3%	9 (5)	1.2%	985	9%
合 計	10,452	100.0%	738 (175)	100.0%	11,190	100%

件数は延件数（実件数）

図2 内容別相談件数

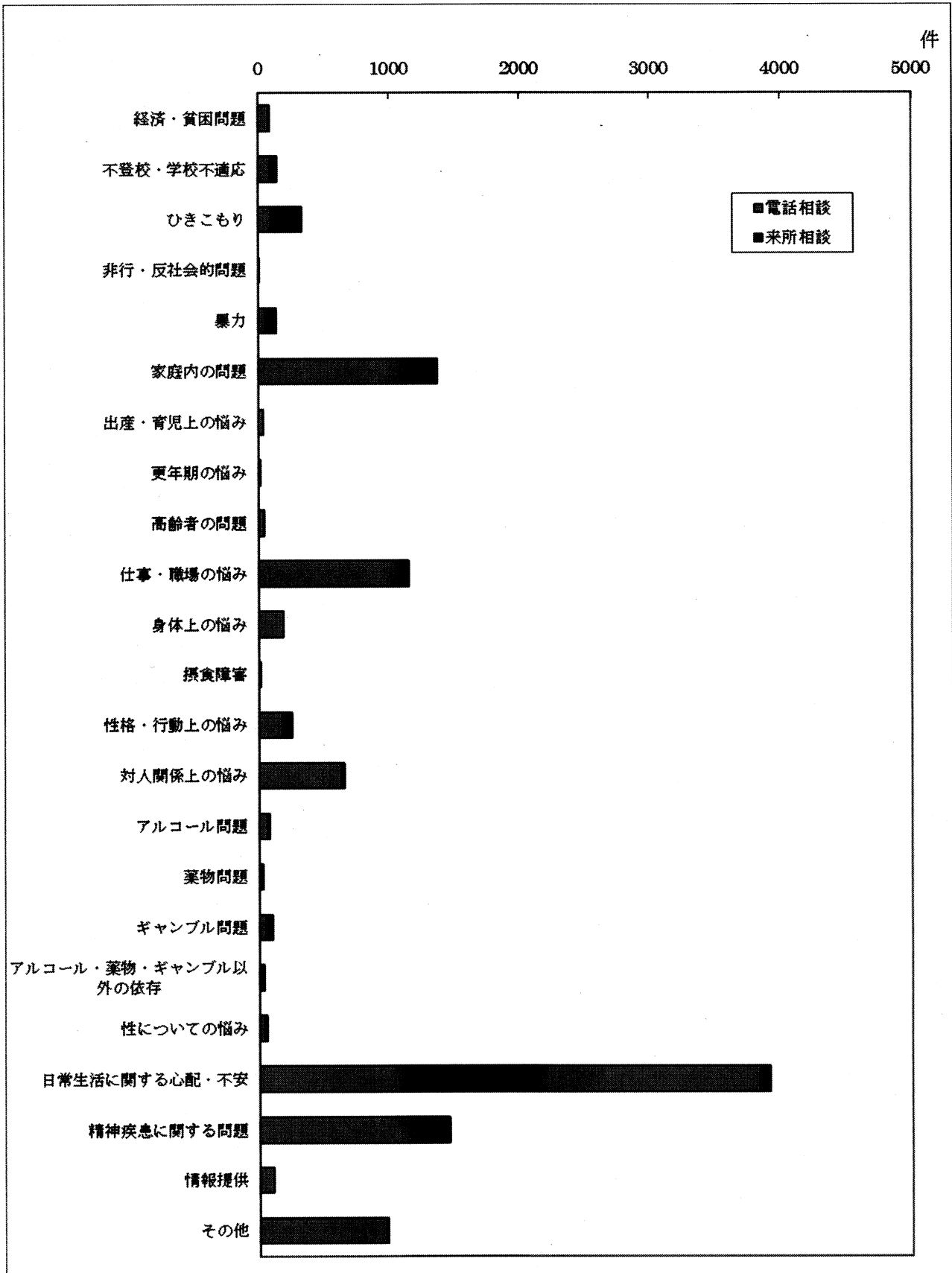


表6 電話相談における対応状況

区分	傾聴・助言	来所相談勧奨	他機関紹介	その他	合計
件数	9,380	108	690	274	10,452
%	89.7%	1.0%	6.6%	2.6%	100%

件数は延件数

表7 新規来所相談における来所経路

経路	性別		合計
	男	女	
直接（ホームページ等含む）	27	17	44
医療機関（精神科）	1	4	5
医療機関（一般科）	2	0	2
保健所	13	1	14
児童相談所	0	0	0
福祉事務所	0	0	0
児童・民生委員	0	0	0
施設・学校	2	7	9
ハローワーク・地域若者サポートステーション （職業安定所・ジョブカフェ石川）	4	0	4
警察	0	1	1
県庁・市町役場	1	0	1
その他の相談機関	2	0	2
こころの相談ダイヤル	0	0	0
その他の電話相談	0	0	0
その他	6	1	7
合計	58	31	89

件数は実件数

表8 来所相談における対応状況

対応状況	実件数		継続相談 （延件数）	合計
	新規	継続		
助言・継続面談	127件	54件	472件	599件
診察	27	21	65	92
（内）診断書発行	5	4	4	9
検査等※	0	0	8	8
訪問	21	14	18	39
合計	175	89	563	738

※知能・心理検査、検査結果の説明などを行ったもの

表9 来所相談における関係機関への紹介先

対応状況	実 件 数		継 続 相 談 (延件数)	合 計
		新 規		
福 祉 事 務 所	0 件	0 件	1 件	1 件
福 祉 事 務 所 以 外 の 市 町 窓 口	0	0	1	1
社 会 福 祉 協 議 会	0	0	0	0
自 立 相 談 支 援 事 業 実 施 機 関	0	0	0	0
地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
児 童 相 談 所	0	0	0	0
児 童 家 庭 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
保 健 所 ・ 保 健 セ ン タ ー	1	1	0	1
精 神 保 健 福 祉 セ ン タ ー	0	0	0	0
発 達 障 害 者 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
医 療 機 関 (病 院 ・ 診 療 所)	27	22	28	55
地 域 若 者 サ ポ ー ト ス テ ー シ ョ ン	0	0	0	0
ハ ロ ー ワ ー ク	0	0	2	2
企 業	0	0	0	0
教 育 関 係 機 関 (学 校 ・ 教 育 委 員 会 等)	1	0	1	2
民 間 支 援 団 体 (当 事 者 団 体 ・ N P O 法 人 等)	1	1	1	2
障 害 者 相 談 支 援 事 業 所	0	0	1	1
就 労 移 行 支 援	1	0	0	1
就 労 継 続 支 援 A 型	0	0	0	0
就 労 継 続 支 援 B 型	0	0	1	1
地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
グ ル ー プ ホ ー ム	0	0	0	0
障 害 者 職 業 セ ン タ ー	1	0	0	1
障 害 者 就 労 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
ひ き こ も り 地 域 支 援 セ ン タ ー	0	0	0	0
そ の 他	3	2	1	4
合 計	35	26	37	72

表 10 来所相談における診断状況

診断名	実 件 数		継 続 相 談 (延件数)	合 計	
		新 規			
症状性を含む器質性精神障害	0 件	0 件	0 件	0 件	0.0 %
精神作用物質使用による 精神及び行動の障害	2	0	7	9	1.2
統合失調症、統合失調症型障害 及び妄想性障害	5	1	9	14	1.9
気分（感情）障害	16	6	83	99	13.4
神経症性障害、ストレス関連障害 及び身体表現性障害	10	4	36	46	6.2
生理的障害及び身体的要因に関連し た行動症候群	2	1	2	4	0.5
成人の人格及び行動の障害	3	1	7	10	1.4
知的障害（精神遅滞）	4	0	15	19	2.6
心理的発達障害	20	8	82	102	13.8
小児期及び青年期に通常発症する 行動及び情緒の障害	1	0	14	15	2.0
神経疾患等	0	0	0	0	0.0
てんかん	0	0	0	0	0.0
診断保留	50	40	124	174	23.6
不明	62	28	184	246	33.3
合計	175	89	563	738	100.0

(5) 組織育成

令和5年度に、当センターが直接かかわりをもった組織は、石川県精神保健福祉家族会連合会、石川県精神障害者支援事業所連絡会、石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会、石川県精神保健福祉協会、依存症関連自助グループの各団体である。

それぞれに対する支援の回数、参加人数は表1のとおりである。

表1 協力組織への支援

対 象	回 数
石川県精神保健福祉家族会連合会	12
石川県精神障害者支援事業所連絡会	2
石川県メンタルヘルスボランティア連絡協議会	2
石川県精神保健福祉協会	10
依存症関連自助グループ	25
合 計	51

ア 精神障害者家族会

(ア) 石川県精神保健福祉家族会連合会 (石家連)

精神障害者家族会は、昭和48年から石川県内の保健所単位に地域家族会が結成され昭和49年2月に10家族会による連合会が発足した。令和2年4月より名称を石川県精神保健福祉家族会連合会に変更した。病院家族会の参加や地域家族会の統合等により、令和5年度は、9家族会で、会員は90名である。

石家連への支援は、各理事会、精神障害者家族会と行政との懇談会など、計12回の支援を行った。

(イ) 地域家族会

地域家族会の育成援助は必要に応じて助言支援を行っている。

イ 石川県精神障害者支援事業所連絡会

平成5年度から県内の精神障害者小規模作業所指導員の研修の場として、活動を行ってきた。作業所数が大幅に増加したことから、平成8年5月に県内の小規模作業所で組織する石川県精神障害者支援事業所連絡会が発足し、月1回の例会等の活動を行っている。令和5年度は、12ヶ所の精神障害者支援事業所が参加している。当センターからは、総

会や定例会の会場提供や出席を通して、活動を支援している。

ウ 石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会

昭和63年に当センターでメンタルヘルスポランティア講座が開催され、各グループによる積極的な活動が行われてきた。平成11年に連絡会が開催され、平成13年度には「石川県メンタルヘルスポランティア連絡協議会」が発足。令和5年度には6グループが活動している。当センターからは、総会での会場提供や出席を通して、活動を支援している。

エ 石川県精神保健福祉協会

昭和35年10月に石川県精神衛生協会が結成され、平成3年6月、名称を石川県精神保健協会、平成10年6月に石川県精神保健福祉協会と改めている。令和5年4月1日現在の会員は、個人会員295名、団体会員27団体、特別会員12病院となっている。

表2 精神保健福祉協会への支援

期 日	内 容	対 象	人 数
R5. 5. 31 ~ R5. 10. 21 まで	こころの健康づくり講師派遣事業	地域、学校、 職域等の団体	3 回 96 人
R5. 5. 2	表彰審査委員会(オンライン開催)	委員	6 人
R5. 5. 15	理 事 会 (オンライン開催)	理事、監事	17 人
R6. 3. 1	〃 (オンライン開催)	〃	17 人
R5. 7. 1	総 会 (書面表決結果報告)	全会員	書面表決 155 人
	精神保健講演会 演題：「ウェルビーイングは上昇するか」～学 生、企業従業員を対象としたウェルビーイング を上昇させるかかわりの照会～ (会場参加とオンライン参加を併せたハイブ リッド方式での開催。後日、ネットにてオンデ マンド配信)	会員、一般	現地参加 17 名、オン ライン参 加 24 回線
R5. 11. 10	精神保健福祉研修会 (1) 演題：「家族の望ましい対応」	関係機関職員、 保健所、一般	30 人
R5. 11. 17	精神保健福祉家族会と病院長等との懇談会 1 部 懇談会 2 部 講演会 演題「統合失調症をもつ人々とその家族 の思いを研究する」～私たちがしてきた 研究紹介～	精神保健福祉 家族会、病院 長、県内保健所 職員、その他関 係者	33 人
R6. 2 月～3 月	会報編集委員会 (メール審議)	委員	6 人

計 10 回、377 人、オンライン 24 回線 (ほかオンデマンド配信視聴者)

オ 依存症関連自助グループ

令和 5 年度における、当センターが把握している依存症関連自助グループは、アルコール、薬物、ギャンブル、摂食障害、AC などに関する 21 グループである。活動に関する周知協力や、情報交換、オープンスピーカーズミーティングへの参加などを通して活動を支援している。

(6) ひきこもり対策推進事業

平成13年4月から、青年期におけるひきこもりや不登校を対象として事業が開始され、平成21年度からは、ひきこもり地域支援センター事業を兼ねて実施している。

地域の保健所や関係機関と連携を図りながら、個別相談や家族交流会、ひきこもり当事者グループ活動、必要に応じて関係機関への訪問等の活動を行った。

また、平成26年度から「ひきこもりサポーター養成研修」を実施し、保健所等への派遣を行っている。令和2年度より、ひきこもり支援に関する研修会や、一般向けの公開講演会を実施している。市町、保健所への技術的な援助として、ひきこもり支援専門職チームの派遣も行った。

ア 個別相談

専用の相談窓口、相談日は設けず、随時相談に応じている。

表1 ひきこもり相談件数

区 分	延件数
電話相談	195 件
来所相談	337 件
訪問等	2 件
メールへの対応	1 件
合 計	535 件

イ ひきこもり当事者グループ（悠友クラブ）活動

ひきこもっている若者たちが安心して過ごせる「居場所」を確保し、同じ悩みをもつ仲間との交流体験を通して、孤独感の軽減、対人関係の改善や社会性の向上、ひきこもりや社会不適應からの脱却を図るために実施した。

日 時：毎週木曜日 13：30～15：30

回 数：年43回

内 容：スポーツ、散策、ゲームなど、参加者が話し合いによって決める。

対 象：概ね18歳以上のひきこもり状態の方

参加数：実人数8人（男性8人、女性0人）延べ138人

ウ ひきこもり家族交流会

ひきこもり問題に悩む家族がその経験や思いを共有することで、孤立感を和らげるとともに、それぞれが抱える問題への対応能力を向上させるために、交流会を開催した。

日 時：年4回土曜日 13：30～15：30

内 容：講義、話し合い

対 象：当センターで個別相談を継続している家族、及び「ひきこもり家族教室」や「ひきこもり家族交流会」に参加経験のある家族

表2 開催状況

開催日	テーマ	参加数
令和5年6月17日	講義「ひきこもりを理解しよう」	7家族9名
令和5年8月19日	ひきこもりサポーターによる体験発表	11家族13名
令和5年10月21日	親子間の対話の仕方について考える	9家族10名
令和5年12月16日	ポジティブなコミュニケーションスキルについて	8家族9名

※令和6年能登半島地震発災により2月は開催中止。

エ ひきこもり対策地域ネットワーク会議

令和6年能登半島地震発災により実施なし。

オ ひきこもりサポーター養成研修

令和6年能登半島地震発災により実施なし。

カ ひきこもりサポーター派遣

保健所等が開催するひきこもり教室等において、ひきこもり家族や支援者が、その経験を聞き対応等を学ぶために、登録したひきこもりサポーター(当事者または家族)を派遣した。(表3)

表3 ひきこもりサポーターの派遣状況

派遣先	当事者		家族	
	回数	人数	回数	人数
こころの健康センター	1回	2人	0回	0人
能登北部保健福祉センター	1回	1人	0回	0人
計	2回	3人	0回	0人

キ ひきこもりサポーターフォローアップ研修

登録しているひきこもりサポーターを対象に、活動上の不安の解消、実際の活動に関する情報の共有、サポーター同士の繋がり強化を図るために研修会を開催した。

日時：令和5年12月22日（土）13：30～15：30

内容：（1）報告①石川県のひきこもり支援について

報告②ひきこもりサポーターの活動状況について

（2）グループワーク（活動に関する意見交換と交流）

参加者：当事者サポーター1名、家族サポーター4名

ク ひきこもり相談・支援者研修会

ひきこもりの相談対応に必要な知識及び基本的な姿勢について習得し、ひきこもり本人・家族への支援が適切に行える人材を養成するため研修を開催した。

実施日	内容	講師	人数
令和5年10月16日 10：00～15：00	講義『「ひきこもりを生きる」を支援する ～一方的な克服や解決をしない、いっしょに歩む～』 事例研究「事例研究は援助職の視点と支援を洗練させる～理解と解釈の広がりをも育む方法～」	白梅学園大学 名誉教授 長谷川 俊雄 氏	36人
令和5年11月2日 10：00～12：00	講義「ひきこもり支援に活かす認知行動療法」	一般社団法人認知行動療法 研修開発センター 理事長 大野 裕 氏	52人

令和5年11月6日 13:30~16:00	講義 「テーマ①：発達障害とひきこもり」 「テーマ②：当事者の社会参加にいたるステップ」	①発達障害者支援センター パス 就労支援リーダー 吉本 真悟 氏 ②T&N リサーチ 代表 関 京子 氏	45人
--------------------------	--	---	-----

ケ ひきこもり公開講演会

令和6年能登半島地震発災により実施なし。

コ ひきこもり支援専門職チーム派遣事業

令和2年度より精神科医等によるひきこもり支援専門職チームを設置。

地域での処遇困難事例に対しての検討会の実施や、対象者への自宅訪問等による直接的な支援を行う。令和5年度は石川中央保健福祉センターからの依頼で事例検討会を1回実施した。

(7) 依存症関連問題指導事業

ア 特定相談指導

表1 相談指導状況

区分	来所相談			電話相談	その他 (メール・手紙)
	計	男	女		
アルコール問題	19 (5)	3 (3)	16 (2)	63	0
薬物問題	15 (5)	15 (5)	0 (0)	15	1
ギャンブル問題	55 (16)	53 (15)	2 (1)	47	3
アルコール・薬物・ギャンブル以外	15 (4)	12 (3)	3 (1)	22	1
計	104 (30)	83 (26)	21 (4)	147	5

件数は延人数（カッコ内は実人数）

イ 依存症教室

アルコールや薬物、ギャンブル等依存症の当事者、家族、支援者が依存症に対する理解を深め、適切な対応や支援が行えることを目的に依存症教室を開催した。

内容：講義及び参加者からの質疑、講師からの助言

表2 依存症教室の開催状況

開催日	テーマ	講師	参加数（人）
令和5年9月20日	さまざまなアディクションとその理解 ー回復ってなんだろうー	北陸 HIV 情報センター 西念 奈津江氏 (ソーシャルワーカー)	36
令和5年11月10日	本人への対応	NPO 法人群馬ダルク 平山 昌一氏 福島 ショーン氏	30
令和5年12月15日	依存症の相談支援 (支援者向け)	こころの健康センター 職員	36
計			102

ウ 依存症研修会（支援者向け研修）

実施なし

エ アディクション関連問題公開講演会

実施なし

オ 依存症自助グループ派遣事業

依存症当事者やその家族が、自助グループの活動について詳しく知る機会を設け、グループに安心して繋がることを目的に、依存症自助グループ派遣事業を実施した。

派遣回数：2回

カ 依存症家族交流会（サンサンの会）

アルコール、薬物、ギャンブル依存症者の家族が、適切な理解と対応を学び、同じ立場で分かち合える場として、平成27年度から家族交流会を開催している。

対象及び人数：アルコール、薬物、ギャンブル依存症者の家族（実7人、延8人）

内 容：書籍『アルコール・薬物・ギャンブルで悩む家族のための7つの対処法 CRAFT』を用い、読み合わせとワーク、分かち合いを行う。

表3 サンサンの会の開催内容

回	テーマ
第1回	コミュニケーションを変える
第2回	望ましい行動を増やす
第3回	イネイブリングをやめるとは
第4回	あなた自身の生活を豊かにする

キ 依存症再発予防プログラム（いしかわ〜ぶ）

アルコール、薬物依存症の当事者が、回復に向けて具体的かつ効果的に取り組むことを目的として、平成27年度から開始した。令和5年度は、集団プログラムを1クール8回セッションで年3クール開催した。

対 象：アルコールや薬物の使用について困っている本人で、その使用を止めたいと願う者

参加人数：実2人、延べ5人

内 容：テキスト「いしかわ〜ぶ」（ISHIKAWA mental health center Relapse Prevention Program）を使用した集団プログラム
1クールにつき2回、富山ダルク職員にリカバリングスタッフとして出席を依頼した。

表4 いしかわ〜ぶ各回のテーマ

回	テーマ
第1回	(1) アルコールや薬物が脳に与える影響 (2) 引き金と渴望
第2回	(1) 思考停止法 (2) 外的な引き金と内的な引き金
第3回	(1) 回復の地図 (2) 回復初期によく起こる問題とその解決方法
第4回	自助グループー信頼・正直さ・仲間
第5回	(1) 思考・感情・行動 (2) アルコールについて考える
第6回	(1) 再使用を防ぐためにーその1ー (2) 再使用を防ぐためにーその2ー
第7回	再使用を防ぐためにーその3ー
第8回	強くなるより賢くなろう

(8) ドメスティック・バイオレンス抑止男性支援事業

平成13年10月の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)の施行に先立ち、平成13年4月から暴力を止めたい男性が相談できる場所として、個別相談窓口を開設している。

ア DV相談件数

表1 DV個別相談件数

区 分		計	電話相談	来所相談
DVに関する相談件数		105件	49件	56件(11)
うちDV抑止に関する相談		101件	45件	56件(11)
相 談 者 内 訳	加 害 男 性	58件	5件	53件(9)
	被 害 男 性	0件	0件	0件(0)
	加 害 女 性	2件	2件	0件(0)
	被 害 女 性	36件	33件	3件(2)
	加害男性の家族等	1件	1件	0件(0)
	被害女性の家族等	1件	1件	0件(0)
	そ の 他	2件	2件	0件(0)

※ () は実件数

(9) 自殺予防対策推進事業

ア 自殺予防に向けた普及啓発の充実

(ア) 講演会

日 時 令和5年10月22日(日) 14:00~17:00

講 師 高橋 聡美 氏

(一般社団法人高橋聡美研究室 代表、中央大学人文科学研究所 客員研究員)

内 容 講演:「子どもの自殺とSOSの受け止め方」

参加者 一般県民 69人

イ 自殺予防のための相談・支援の充実

(ア) 民間団体との連携会議

自殺予防週間や月間事業の一環として、かけがえのない命をまもるネットワークいしかわ(以下の民間団体:石川県宗教連盟、NPO法人ささえる絆ネットワーク北陸、NPO法人金沢あすなろ会、NPO法人子どもの虐待防止ネットワーク石川、公益社団法人金沢こころの電話、子ども夢フォーラム、一般財団法人メンタルケア協会石川事務所、ひまわりの会、金沢ほっとの会)と県が連携し、自殺対策に向けて事業の計画検討や情報交換を行った。

回数	日時	内容	団体数及び参加数
1回	5月17日	こころの健康づくり講演会の事業計画検討	6団体 11人
2回	6月8日		7団体 12人
3回	7月4日		7団体 11人
4回	8月9日		7団体 11人

(イ) 包括的支援のための多職種事例検討会

平成26年度から自殺のさまざまな要因に関連が深い分野の専門家や支援者等多くの職種が、事例を通して支援のあり方を共有し連携して支援する仕組みを例年検討していたが、令和5年度は令和6年(2024年)能登半島地震の影響により実施しなかった。

ウ こころの健康づくりと早期発見・治療の促進

(ア) ゲートキーパー養成等事業

地域の中で悩んでいる人に気づき、必要な支援につなげるゲートキーパーの役割を担う人を育成し、自殺予防につなげることを目的とする。

a ゲートキーパー指導者研修会

地域において、自殺防止対策のリーダーとして活動できる人材を養成するとともに、これまで養成したゲートキーパーリーダーの更なる資質の向上のため研修会を開催した。

日 時：令和5年8月23日（水）9：30～12：00

講 師：こころの健康センター所長・精神科医 角田 雅彦

内 容：講演「ゲートキーパー指導者にとって大切なこと」
センター職員からの説明

参加者：行政機関の自殺対策担当者、生活困窮者自立支援担当者、
教育関係機関の担当者、他関係機関の担当者 68人

b ゲートキーパー出前講座（※）

講 師：こころの健康センター所長 角田 雅彦（精神科医）

実 施：17か所 対象者計：899名

※「(3) 普及啓発 イ 講師を派遣した講演会」に詳細を記載

(イ) 若い世代のこころの健康づくり事業

高校生や専門学校生等を対象にした自殺予防のためのこころの健康教育、ゲートキーパー研修等を実施した。

実施日	対象	参加数
令和5年5月24日	石川県立総合看護専門学校（学生）	20人
令和5年10月23日	金沢医科大学（学生）	14人

エ 自殺未遂者へのケアと再発防止対策の構築

例年、自殺未遂者の再企図の防止や、自殺未遂者の心理面に配慮した対応の理解と普及を目的に、精神科医療や地域の支援につなぐための連携や体制の構築に向けた研修や事例検討会等を実施している。

(ア) 自殺予防対策講演会

令和5年度は令和6年(2024年)能登半島地震の影響により、研修会等は開催しなかった。

オ 遺族等へのケアと支援施策の充実強化

(ア) 自死遺族交流会(J交流会)

家族を自死(自殺)で亡くした方達が、苦しい気持ちの語り合いや傾聴、互いを支え合う場として、平成18年11月より「自死遺族交流会」を開催している。

日 時：奇数月第1土曜日 14:00～16:00

場 所：金沢市内

回 数：5回

参加数：実6人 延べ12人

(10) 子どもの心のケア推進事業

近年、ひきこもりや小児うつ、摂食障害、発達障害など様々な子どもの心の問題が社会的課題となっているが、子どもの心の問題の診療を担う医師が少なく、保護者はもとより保育所や学校等においてもその対応に苦慮している現状がある。

そこで、子どもの心の問題に対し、医療・教育・保健・福祉の各分野が同じ認識のもとで連携し、子どもの健全な発達への支援と、地域で安心して継続的な相談ができる体制の構築を目的として、平成20年度から「いしかわ子どもの心のケアネットワーク事業」を開始し、平成24年度からは「子どもの心のケア推進事業」として事業を行っている。

ア 子ども心のケア相談事業

電話や来所面接による個別相談を通じ、子どもの心の問題で悩む家族や関係者が安心して相談でき、的確な支援を受けられる機関を紹介するなどコーディネート機能を実施した。

(ア) 電話相談実績

表1 電話相談件数と相談者の内訳

年代	延件数	相談者内訳		
		父	母	その他 (**)
幼児	4	0	2	2
小学生	48	3	33	12
中学生	55	8	31	16
高校生	57	2	40	15
その他 (*)	7	1	3	3
計	171	14	109	48

その他 (*) : 義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者
その他 (**) : 本人、祖父母、学校等

表2 電話相談内容(延)

	経済・貧困 問題	不登校 ひきこもり	非行 暴力	家庭内 の問題	出産・育児 上の悩み	身体上 の悩み	摂食障害	性格・行動 上の悩み	対人関係 の悩み	依存関係	性について の悩み	日常生活の 不安	病気の不安 等	情報提供 その他	計
幼 児	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
小 学 生	0	17	1	2	6	0	0	5	4	1	1	5	2	4	48
中 学 生	0	35	1	8	1	0	0	1	2	1	0	3	3	0	55
高 校 生	0	24	2	5	0	2	0	4	2	2	1	3	4	8	57
そ の 他	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	7
計	0	76	4	20	8	2	0	10	8	4	2	14	11	12	171

(イ) 来所相談

表3 来所相談件数と相談者内訳

年代	実件数	延件数 (***)	相談者内訳			
			父	母	本人	その他(**)
幼 児	0	0	0	0	0	0
小学生	6	25	0	20	15	0
中学生	5	9	8	3	6	0
高校生	12	20	4	10	15	0
その他 (*)	0	0	0	0	0	0
計	23	54	12	33	36	0

その他 (*) : 義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者、 その他 (**): 祖父母、学校等
 延件数 (***) : 来所回数で計上。(母と子の相談対応を同時に行った場合、延1件と計上。) 相談者内訳
 が、実際に相談対応した人数となる。

表4 来所相談内容 (実件数内訳)

	経済・貧困 問題	不登校 ひきこもり	非行 暴力	家庭内 の問題	出産・育児 上の悩み	身体上 の悩み	摂食障害	性格・行動 上の悩み	対人関係 の悩み	依存関係	性について の悩み	日常生活の 不安	病気の不安 等	情報提供 その他	計
幼 児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 学 生	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6
中 学 生	0	3	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	5
高 校 生	0	6	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2	12
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	12	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4	0	3	23

表5 来所相談の経路（実件数内訳）

	直接	医療機関からの紹介	学校からの紹介	その他	年代別計
幼 児	0	0	0	0	0
小学生	2	2	2	0	6
中学生	4	0	1	0	5
高校生	7	1	3	1	12
その他（*）	0	0	0	0	0
計	13	3	6	1	23

その他（*）：義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者

表6 来所相談の処遇状況及び他機関との連携状況（実件数内訳）

	対応について助言	継続面接	他機関へ紹介（病院等）	年代別計	他機関と連携（※再掲）
幼 児	0	0	0	0	0
小学生	1	5	0	6	3
中学生	2	3	0	5	1
高校生	6	5	1	12	5
その他（*）	0	0	0	0	0
計	9	13	1	23	9

その他（*）：義務教育後、高等学校に在籍していない18歳以下の者

※再掲：医療機関・保健福祉センター・市町・学校・その他機関

イ 子どもの心の支援者研修会

（ア）子どものこころの問題に携わる関係者育成セミナー

目 的：医療、教育、保健、福祉等、子どもの心の問題に関する治療及び支援に携わる各分野の関係者が一堂に会し、相談対応技術のスキルアップ及び連携の強化を図る。

参集者：子どもの心の問題に携わる医療・保健・教育・福祉等関係者

内 容：講演会及び県内の話題提供

< 1回目 >

日時：令和5年10月31日（火）13：30～16：30

開催方法：ZOOMを利用したオンラインによる開催

参加者数：100人（会場26人、オンライン74人）

①講演

講師：国立成育医療研究センター

山口 有紗 氏（小児科専門医・小児精神神経学会認定医）

テーマ：すべての人のための子どもの心のケア

「子どもの声を聴き、対話するために」

②県内の子どもの心に関する話題提供

摂食障害支援拠点病院について

話題提供者：水上 喜美子 氏

（金沢大学医薬保健研究域医学系 精神行動科学、助教）

< 2回目 >

日時：令和5年11月22日（水） 13：30～16：30

開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催

参加人数：86人（会場20人、オンライン66人）

①県内の子どもの心に関する話題提供

石川県の子どもの心の診療実態

話題提供者：高田 省吾 氏（石川県立こころの病院、精神科医）

石川県こころの健康センター 職員

②講演

講師：国立国際医療研究センター国府台病院

箱島 有輝 氏（児童精神科医）

テーマ：子どもが不安・恐怖を訴えたら 大人にできること

< 3回目 >

日時：令和5年12月6日（水）13：30～16：30

開催方法：集合形式とオンライン併用のハイブリッド開催

参加人数：81人（会場27人、オンライン54人）

①講演

講師：金沢少年鑑別所長・金沢法務少年支援センター長

佐藤 健司 氏（公認心理師）

テーマ：暴力・いじめ・性加害のある子どもとのかかわり方

②県内の子どもの心に関する話題提供

難しいケース支援に行き詰まりを感じたら

話題提供者：佐藤 健司 氏（金沢法務少年支援センター長）

(イ) 発達障害等早期支援関係者セミナー

目的：幼児・小学校低学年の発達障害等の支援に携わる各分野の関係者が一堂に会し、相談対応技術のスキルアップ及び連携の強化を図る。

参集者：医師（幼児健康診査担当医師・学校医等）、看護師等、保健・教育・福祉関係者

令和6年1月7日(日)に実施予定だったが、令和6年能登半島地震のため中止した。

(ウ) 災害と子どもの心のケア研修会（令和6年能登半島地震を受け緊急開催した）

目的：令和6年能登半島地震の後、通常の生活が戻りつつある地域で、子どもとの関わり方や今後出てくる影響など、子どもを支える大人にとって必要なことを学ぶ

参集者：子どもの心の問題に携わる保健・教育・福祉等関係者

日時：令和6年1月18日（木）15：00～17：00

開催方法：Webex を利用したオンライン開催

参加人数：375人（開催後、HPにて動画を公開。再生回数756回：R6.3.7時点）

講師：岩手医科大学医学部神経精神科学講座（児童精神医学）

八木 淳子 氏

テーマ：地震後、日常生活が始まった子どもたちの心のケア

保育所や学校での関わり方・大人が気を付けたいこと

ウ 子ども心のケア勉強会

目的：かかりつけの小児科医や内科医を初めとした、普段から子どもと関わる関係者が子どもの心のケアを学ぶ場とする。また、勉強会の参加により平時から顔の見える関係をもつことで、地域連携の基盤をつくる。

スーパーバイザー：子どもの心の診療拠点病院職員

内容：子どもの心のケアに関して、事例検討会を中心に意見交換や各関係機関の機能・役割について共有する。適宜、勉強会で取り上げた内容に関する講義や情報提供を行う。

< 1回目 >

日時：令和5年11月26日（日）13：30～16：30

スーパーバイザー

大野 一郎 医師（独立行政法人国立病院機構 医王病院）

佐野 滋彦 医師（金沢大学 医学系精神行動科学）

高田 省吾 医師（石川県立こころの病院）

参加人数：39人

< 2回目 >

日時：令和6年1月14日（日）に開催予定だったが、能登半島地震のため中止。

エ いしかわ子どものこころのケアネットワーク事業検討会

目的：「いしかわ子どものこころのケアネットワーク事業」を円滑に実施するために、子どもに関わる各分野の関係者による検討会を開催している。

実施主体は県庁少子化対策監室。当センターは事務局として参加している。

参集者：医療・保健・教育・福祉関係者

内容：各機関における子どものこころのケア推進に係る取り組みについての報告事例検討

※令和5年度は開催されなかった

オ 中央で開催された高度な研修・会議への参加

(ア) 子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議

< 第1回 >

日時：令和5年7月6日（木）

開催方法：オンライン

< 第2回 >

日時：令和6年1月19日（金）

開催方法：オンライン

※能登半島地震のため参加できなかった。事前に事務局に県内の被災状況・地震後の取り組み等を伝え、会議では代理報告していただいた。

(イ) 子どもの心の診療ネットワーク事業 中央拠点病院主催 研修会

テーマ：それぞれのライフステージにおける家族支援

日時：令和5年7月7日（金）

開催方法：オンライン

カ 普及啓発

(ア) 子どもの心の診療・相談機関情報ガイド

子どもの心の問題に対応している精神科・心療内科・小児科等標榜医療機関及び相談機関の情報を収集し、小冊子を発刊し周知を図っている。令和3年度に内容を大きく見直し、第3版を発行した。令和4年度には、掲載機関のうち病院の改訂を行った。

(イ) 子どもの心の診療機関MAP

子どもの心の診療ネットワーク事業中央拠点病院事務局（国立成育医療研究センターこころの診療部内）が作成し、ホームページに掲載しているもの。県内の精神科及び小児科の各医療機関の診療情報を掲載するため、各々の機関に協力依頼を行っている。

令和3年度に上記情報ガイド改訂と併せて新規掲載の依頼と掲載内容の見直しを行い、その後は医療機関からの申し出があった際に、修正を行っている。

(11) 精神障害者地域生活支援事業

精神科病院に長期にわたり入院している精神障害者のうち、受け入れ条件が整えば在宅生活が可能と見込まれる人、及び入院期間が1年未満の人であっても地域生活への支援を行わなければ社会的な入院の長期化が見込まれる人への退院促進を図る。

ア ピアサポーターの派遣

精神科病院、相談支援事業所と連携して、登録しているピアサポーターを派遣し、入院患者の地域生活への動機付けのための病院訪問や外出時の同行支援等を通じて退院促進を図った。

(ア) ピアサポーターの新規登録人数：1人

(イ) ピアサポーターの派遣回数及び人数

派遣内容等	回数	人数
医療機関への派遣	2回	2人

(12) 災害時のこころのケア

災害時には被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下し、さらに災害ストレス等により新たに精神的問題が生じる等、精神保健医療への需要が拡大する。それに備えて、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の養成を行っている。

加えて、令和6年能登半島地震の発生により、被災者や支援者に対する心のケアを目的とした石川こころのケアセンターが発足した。令和5年度中には、電話相談・人材育成・普及啓発事業を実施した。

ア 石川県災害派遣精神医療チーム（DPAT）研修会

石川県災害派遣精神医療チーム（DPAT）として活動する精神科医療機関の従事者を対象に、平時から、必要な知識や活動手法やケア技術、情報伝達等の訓練により、それらを習得し、災害発生に備えた精神医療の活動体制を構築することを目的に研修会を実施した。

(ア) 石川DPAT研修・机上訓練

(1) 講義（動画視聴）

実施期間 令和5年8月中旬～9月

内容（11項目、約302分）

内容	講師
I (1) 災害医療概論とDPATの活動理念 (2) DPATのTTT	福井大学医学部精神医学 大森 一郎 氏 (DPAT インストラクター)
II 県内の各種体制について (1) 石川県の防災計画 (2) 石川県の精神保健医療提供体制	石川県危機対策課 石川県障害保健福祉課
III DMATと災害医療コーディネーター	石川県立中央病院救急救命センター長 明星 康裕 氏 (DMAT 統括者)
IV 熊本地震におけるDPAT活動を通して感じたこと	石川県立こころの病院診療部医長 神川 繁利 氏 (DPAT 先遣隊)
V (1) 「ロジスティクス概論」 (2) 「災害時の情報管理」	静岡県立こころの医療センター 岡庭 隆門 氏 (DPAT インストラクター)
VI 災害医療情報支援システム(EMIS、J-SPEED 等)	
VII (1) 「DPATの被災病院支援」 (2) 「DPATの地域支援」による研修	福井大学医学部精神医学 大森 一郎 氏 (DPAT インストラクター)

※動画視聴は県内の精神医療保健福祉関係者に広く案内した。机上訓練に参加できるのは、石川DPAT指定医療機関の者で、視聴確認テストを提出した者とした。

(2) 机上訓練

日時：令和5年10月8日（日）

会場：石川県立こころの病院

参加者：24名

内容：DPAT活動拠点本部活動、地域支援DPAT活動、病院支援DPAT活動のロールプレイを実施。

指導者：DPATインストラクター 大森 一郎 氏、岡庭 隆人 氏、大根 太陽 氏
DPATプレインストラクター（当時） 池田 隆義 氏

(イ) 石川DPAT緊急訓練

令和6年能登半島地震では、発災当初から県外のDPAT先遣隊に多くの支援を受けたが、活動を継続するため石川県内のDPAT隊員を早急に増員する必要があり、緊急訓練を2回実施した。

①緊急訓練（1回目）

日時：令和6年1月19日（金）

場所：石川県地場産業振興センター 大研修室

参加者：102名

内容：講義及び訓練

指導者：DPATインストラクター 高橋 晶 氏、奥浜 伸一 氏、平位 和寛 氏
DPATプレインストラクター（当時） 池田 隆義 氏

②緊急訓練（2回目）

日時：令和6年2月4日（日）

場所：石川県立こころの病院

参加者：182名

内容：講義及び訓練

指導者：DPATインストラクター 五明 佐也香 氏、平位 和寛 氏、吉田 航 氏、
池田 隆義 氏

※緊急訓練の内容は国のDPAT活動要領にある研修基準を満たさないため、次年度中に追加研修を実施する予定である。

イ 石川こころのケアセンター

令和6年1月1日に発生した能登半島地震を受け、県民のこころのケアを行う中核として、石川こころのケアセンターを設置した。

(ア) 活動の変遷

- 令和6年1月22日 石川こころのケアセンター設置
被災者相談ダイヤル（フリーダイヤル）開始
- 令和6年3月 1日 支援者サポートダイヤル（フリーダイヤル）開始
- 令和6年3月20日 かかりつけ医スキルアップ研修 実施

(イ) 電話相談実績

総件数 254件（令和6年1～3月）

(ウ) 人材育成事業

①かかりつけ医スキルアップ研修

日時：令和6年3月20日（水・祝）

開催方法：オンラインにて開催

内容

座長：内藤 暢茂 氏（石川DPAT統括者）

1) 奥能登のかかりつけ医の診療の現状

瀬島 照弘 氏（小木クリニック 院長）

2) かかりつけ医のためのトラウマの理解と基本的対応

西 大輔 氏（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 教授）

3) 被災者への精神科医療提供状況について

内藤 暢茂 氏

4) 質疑応答・意見交換

参加者：74名

(エ) 普及啓発事業（リーフレット・チラシの作成）

普及啓発の一環として、災害時における心の変化やケアに関して、下記のリーフレット・チラシを作成。ホームページ掲載及び、関係機関に配布した。

- ①いしかわこころのわ（話・輪・和）
- ②被災地における飲酒について
- ③被災地で支援活動をしている皆様へ

ウ 災害と子どもの心のケア研修会

※子どもの心のケア推進事業に記載した内容の再掲

日時：令和6年1月18日（木）

開催方法：オンライン

内容：講演

地震後、日常生活が始まった子どもたちの心のケア

保育所や学校での関わり方・大人が気を付けたいこと

講師：八木 淳子 氏（岩手医科大学医学部神経精神科学講座（児童精神医学））

参加者：375名

3 支援課（発達障害支援センター）業務

(1) 発達障害児(者)及び家族等に対する相談支援・発達支援・就労支援

発達障害児(者)に関する相談全般で1～数回の相談で終了する「相談支援」、心理機能の適正な発達を支援し、円滑な社会生活を促進するために発達障害の特性に対応して支援する「発達支援」、就労に関して支援する「就労支援」を行っている。

※支援は「相談支援」から始まり、支援計画を立てて、継続的支援である「発達支援」「就労支援」に切り替える。

表1 年齢別

年齢区分(歳)		0～3	4～6	7～12	13～15	16～18	19～	不明	合計
相談 支援	実人員	13	24	77	42	35	224	45	460人
	延件数	13	33	135	96	79	556	49	961件
発達 支援	実人員	11	145	82	40	14	58	5	355人
	延件数	48	1,996	930	590	197	560	11	4,332件

年齢区分(歳)		18歳未満	18歳以上	合計
就労 支援	実人員	0	36	36人
	延件数	0	279	279件

表2 相談支援の主な相談内容

相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	131
現在の生活に関することや家庭で家族ができることを知りたい	424
利用できる制度について知りたい	91
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	218
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	129
進路や将来の生活に関する相談をしたい	83
対応困難な状況の改善について相談したい	45
今後の就労について相談したい	146
現在勤めている職場に関する相談をしたい	85
その他	248
合 計	1,600件

※相談時毎の相談内容を計上。複数チェックあり

表3 相談方法

区 分	来所	訪問	電話	その他	合計
相談支援	247	5	632	77	961件
発達支援	219	3,940	168	5	4,332件
就労支援	222	0	55	2	279件
合 計	688	3,945	855	84	5,572件

その他：メール、FAX、文書等を含む

表4 障害種別

区 分	相談支援	発達支援	就労支援	合計
自 閉 症	13	42	0	55
アスペルガー症候群	7	8	1	16
広汎性発達障害	90	57	31	178
A D / H D	39	11	3	53
L D	6	3	0	9
そ の 他	72	80	1	153
不明（未診断含む）	233	154	0	387
合 計	460人	355人	36人	851人

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症[※]外[※]障害含む

表5 相談者

区 分	相談支援	発達支援	就労支援	合計
本 人	407	2,236	227	2,870
保 護 者 ・ 親 族	426	2,066	30	2,522
保 育 所 ・ 幼 稚 園	0	0	0	0
小 学 学 校	2	0	0	2
中 学 学 校	3	1	0	4
高 等 学 校	1	1	0	2
特 別 支 援 学 校	0	0	0	0
専 門 学 校 ・ 短 大 ・ 大 学	0	0	0	0
教 育 委 員 会	3	0	0	3
市 町 保 健 セ ン タ ー	5	0	0	5
保 健 所	1	0	0	1
児 童 相 談 所	0	1	0	1
行 政	7	0	0	7
医 療 機 関	59	16	2	77
企 業	9	0	0	9
公 共 職 業 安 定 所	1	0	0	1
障 害 者 職 業 セ ン タ ー	1	0	0	1
地 域 若 者 サ ポ ー ト セ ン タ ー	0	0	0	0
障 害 者 就 業 ・ 生 活 支 援 セ ン タ ー	2	0	0	2
相 談 支 援 事 業 所	6	8	9	23
就 労 移 行 支 援 事 業 所	3	2	9	14
就 労 継 続 支 援 事 業 所	0	0	1	1
そ の 他	25	1	1	27
合 計	961 件	4,332 件	279 件	5,572 件

行政：保健所、市町保健センターを除く

表6 支援回数別実人員

区 分	1～10 回	11 回以上	合計
発達支援（実人員）	289	66	355 人
就労支援（実人員）	26	10	36 人
相談支援（実人員）	450	10	460 人

(参考) 年度別各支援件数の推移

年度	相談支援	発達支援	就労支援	計
R元	1,109 (605)	3,519 (251)	702 (62)	5,330 (918)
R2	854 (451)	2,398 (204)	554 (53)	3,806 (708)
R3	981 (467)	4,653 (346)	568 (48)	6,202 (861)
R4	943 (450)	4,766 (388)	545 (40)	6,254 (878)
R5	961 (460)	4,332 (355)	279 (36)	5,572 (851)

注：() は内数で実人員

(2) 精神科医による相談事業

嘱託の精神科医による相談を月1回実施している。相談後の支援としては、センターによる継続支援や、必要に応じて医療機関等への紹介を実施している。

相談事業結果

実 施 回 数		2回
来 所 実 人 員		4人
来 所 延 人 員		4人
年齢別	0 ~ 3 歳	0
	4 ~ 6 歳	0
	小 学 生	0
	中 学 生	0
	1 6 ~ 1 8 歳	0
	1 9 歳 ~	4
	合 計	4
診察結果	障 害 な し	0
	経過観察 (判定保留)	1
	自 閉 症	0
	アスペルガー症候群	0
	広汎性発達障害	2
	A D / H D	0
	知 的 障 害	0
	そ の 他	1
合 計	4	
支援内容	センターで継続支援	3
	医療機関紹介	1
	療育施設紹介	0
	その他の機関紹介	0
	他機関で管理中	0

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症[※]外[※]障害含む

(3) 青年期グループ活動

平成 17 年 10 月より、週 1 回午前 10 時から午後 3 時まで、青年期の当事者を対象としたグループ活動を実施している。令和 5 年度より、対象者がいないため休止中。

(4) 就労者グループ活動

平成 22 年 7 月より、月 1 回午後 7 時から 8 時半まで、就労者の当事者を対象としたグループ活動を実施している。令和 5 年度より、対象者がいないため休止中。

(5) 親のつどい

平成 19 年 10 月より、月 1 回午後 1 時半から 3 時半まで、青年期にある当事者の保護者を対象として実施している。

平成 21 年 12 月より、月 1 回実施していた学齢期にある当事者の保護者を対象とした親のつどいは、令和元年より休止中。

表 1 実施状況

区分	実施回数	実人員 (家族)	延人員	内 容
青年期	11 回	5 組	19 人	ピアカウンセリング、話し合い等

(6) 関係機関等との調整会議

表 1 開催状況

内容	発達障害 全般	療育	医療	教育	保健	福祉	就労	自立 支援	その他	合計
回数	4	2	0	1	1	7	3	3	0	21 回

(7) 機関コンサルテーション

関係機関に対する障害児（者）への関わり方等についての助言を実施している。

表1 対象機関及び支援内容

区 分		実支援施設数	延支援件数
対象機関	小 学 校	1	1
	中 学 校	2	2
	高 等 学 校	1	1
	特 別 支 援 学 校	0	0
	専 門 学 校 ・ 大 学	1	1
	県 教 育 委 員 会	1	1
	障 害 者 職 業 セ ン タ ー	0	0
	障 害 福 祉 サ ー ビ ス 多 機 能 型 事 業 所	3	3
	相 談 支 援 事 業 所	5	7
	就 労 移 行 支 援 事 業 所	2	2
	就 労 継 続 支 援 事 業 所	0	0
	公 共 職 業 安 定 所	0	0
	市 町	3	3
	放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	7	11
	医 療 機 関	4	5
	児 童 相 談 所	0	0
	企 業	7	9
	そ の 他	2	2
	合 計	39カ所	48件
支援内容	障 害 特 性 の 理 解		1
	指 導 ・ 対 応 方 法 の 助 言		34
	心 理 査 定		0
	事 例 検 討		1
	研 修 会		0
	そ の 他		12
	合 計		48件

(8) 個別支援のための調整会議

関係機関による会議を開催し、障害児(者)に関して、共通認識を図り、よりよい支援を検討している。

表1 年齢別

区 分	0～6 歳	7～12 歳	13～15 歳	16～18 歳	19 歳以上	合計
実人員	0	0	0	2	9	11 人
延件数	0	0	0	5	11	16 件

表2 障害種別

区 分	実支援人員
自 閉 症	0
アスペルガー症候群	0
広汎性発達障害	9
A D / H D	1
L D	0
そ の 他	1
不明(未診断含む)	0
合 計	11 人

広汎性発達障害：高機能自閉症、自閉症スペクトラム障害含む

表3 会議テーマ

内 容	開催回数
家 庭 生 活	0
健康・医療	1
教 育	1
福 祉	0
療育支援	1
進路相談	0
自立支援	5
就労支援	7
そ の 他	1
合 計	16 回

(9) 普及啓発及び研修

発達障害児（者）の理解及び支援を積極的に進めるため、一般を対象とした普及啓発及び関係機関の職員を対象とした研修会を実施している。

また、関係機関からの講演依頼について、講師を派遣している。

令和4年度から研修体系を変更して実施。

表1 研修会及び公開講演会の開催状況

研修名	令和5年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（基礎研修）
月日 場所	令和5年6月30日（金）11:00～16:15 石川県庁 1102会議室
内容 講師	研修Ⅰ－① 講演「発達障害者支援法について」 講師：石川県障害保健福祉課 主事 嶋田 聖輝
	研修Ⅰ－② 講演「発達障害のある人への相談支援」 講師：石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾
	研修Ⅰ－③ 講演「発達障害とは」 講師：やすもと医院院長 精神科医 安本 真由美 氏
参加者	行政（保健・福祉）、相談支援事業所等の関係機関で、初めて相談業務に携わる方もしくは発達障害に関する研修会に参加したことのない方 44人
月日 場所	令和5年7月30日（日）14:00～16:30 石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール
内容	研修Ⅱ 講演「ライフステージから考える発達障害特性の理解」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫 氏
参加者	行政（保健・福祉）、相談支援事業所等の関係機関で、初めて相談業務に携わる方もしくは発達障害に関する研修会に参加したことのない方 41人

研修名	令和5年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）
月日 場所	令和5年6月30日 石川県庁 1102会議室
内容	① 講義「発達障害者支援法について」 ② 講義「発達障害のある人への相談支援」 ③ 講義「発達障害とは」
講師	① 石川県障害保健福祉課 主事 嶋田 聖輝 ② 石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾 ③ やすもと医院 精神科医 安本 真由美氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 23人
月日 場所	令和5年7月30日 石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール
内容	講演「ライフステージから考える発達障害特性の理解」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 *関係機関研修会を講義の一コマに 23人
月日 場所	令和5年8月31日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	講義①「ライフステージに応じた支援～幼児・学齢期～」 講義②「ライフステージに応じた支援～思春期以降～」
講師	日本ポーター協会石川湖南支部 小坂 正栄氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 22人
月日 場所	令和5年9月22日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	講義「アセスメントツール研修（概論）」
講師	臨床心理士 滋野井 圓氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する 相談経験年数が概ね3年以内の方 18人
月日 場所	令和5年10月6日 石川県こころの健康センター 研修室
内容	① 講義「発達障害とひきこもりについて学ぶ」 ② 講義「就労関係支援機関における訓練やアセスメントについて学ぶ」

	③ 講義と発表「就労関係支援機関の紹介および当事者の体験発表」
講師	① 発達障害者支援センターパース 就労支援リーダー 吉本 真悟 氏 ② 就労移行支援事業所リエゾン 所長 中山 肇 氏 ③ 石川障害者職業センター 上席障害者職業カウンセラー 栗本 忠 氏、当事者 1名
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する相談経験年数が概ね3年以内の方 ①23人 ②・③21人
月日	令和5年11月15日
場所	石川県地場産業振興センター本館 第1研修室
内容	講演「WISC-IV・WISC-Vを用いた学齢期のアセスメント」
講師	日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長 大六 一志 氏
参加者	行政、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する相談経験年数が概ね3年以内の方 *アセスメントツール研修会を講義の一コマに 17人
月日	令和5年9月～令和5年12月 計4回
場所	石川県発達障害支援センター
内容	実習① 石川県発達障害支援センターの機能（個別相談）について ・個別相談の流れについて説明 ・ケースカンファレンスに参加、質疑や意見交換
講師	石川県発達障害支援センター職員
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する相談経験年数が概ね3年以内の方 計 21人
月日	令和5年9月22日
場所	石川県こころの健康センター 研修室
内容	実習② 当事者の声を聞く ・講演「トウジシャたちの当事者意識－伸びる発達障害者はココが違う!!－」
講師	大人の発達障害を明るく語る会・ここらぼ 代表 みっと氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する相談経験年数が概ね3年以内の方 19人
月日	令和5年12月14日
場所	石川県こころの健康センター 研修室
内容	実習③ 発達障害がある人の支援方法について学ぶ(講義、ロールプレイ等) ・講義と実習「特性理解」と「支援の角度」
講師	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏
参加者	保健、福祉、教育、医療、相談機関等の相談支援従事者で、発達障害に関する相談経験年数が概ね3年以内の方 20人

研修名	令和5年度発達障害者等相談支援従事者育成研修（実践研修）	
月日	令和5年9月21日（木）13:00～16:30	令和5年9月28日（木）13:00～16:30
場所	石川県能登中部保健福祉センター 会議室	石川県こころの健康センター 研修室
内容	研修Ⅰ「情報交換会」	
講師	司会・進行・助言：石川県発達障害支援センター 支援課長 酒井 伸吾	
参加者	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 7人	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 18人
月日	令和5年10月19日（木）13:00～16:30	令和5年10月26日（木）13:00～16:30
場所	石川県能登中部保健福祉センター 会議室	石川県こころの健康センター 研修室
内容	研修Ⅱ 「講義・演習（グループワーク）」発達障害の特性を理解した対応方法について	
講師 助言	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏	
参加者	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 7人	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 18人
月日	令和5年11月16日（木）13:00～17:00	令和5年11月30日（木）13:00～17:00
場所	石川県能登中部保健福祉センター 会議室	石川県こころの健康センター 研修室
内容	研修Ⅲ「事例検討会（グループワーク）」参加者からの事例発表	
講師	金沢手をつなぐ親の会事務局次長 相談支援事業所「きずな」相談支援専門員 笠合 竜明 氏	
参加者	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 7人	過去5年間に、上級研修か専門研修かフォローアップ研修を修了した方 17人

研修名	令和5年度アセスメントツール基礎研修
月日 場所	令和5年11月15日（水）10:00～16:00 石川県地場産業振興センター本館 第1研修室
内容	講演「WISC-IV・WISC-Vを用いた学齢期のアセスメント」
講師	日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長 大六一志氏
参加者	行政、福祉、教育、医療等の発達障害児者支援に携わる職員（121人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）受講者（17人） 受講者計 138人

研修名	令和5年度石川県発達障害支援センター関係機関講演会
月日 場所	令和5年7月30日（日）14:00～16:30 石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール
内容	講演「ライフステージから考える発達障害特性の理解」
講師	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長 同大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 精神科医 本田 秀夫氏
参加者	保健、福祉、医療、教育、相談機関等の発達障害児者支援に携わる職員（180人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（基礎研修）受講者（41人） 発達障害者等相談支援従事者育成研修（専門研修）受講者（23人） 受講者計 244人

研修名	令和5年度石川県発達障害者支援センター公開講演会
月日 場所	令和6年3月9日（土）14:00～16:30 石川県地場産業振興センター新館 コンベンションホール
内容	講演「読み書き障害を持つ人達の生きづらさとは ～学齢期から社会参加までの理解と支援～」
講師	北陸大学 国際コミュニケーション学部心理社会学科 教授 河野 俊寛氏
参加者	医療、保健、福祉、教育、相談機関等の職員、保護者、一般 計 126人

表2 講師を派遣した講演会及び研修会開催状況

日時	会場	内容	対象及び人数
令和5年6月6日	県庁	発達障害支援アドバイザー派遣事業研修会	放課後等デイサービススタッフ等 41人
令和5年6月21日	発達障害支援センター	精神保健福祉担当者研修会	福祉・保健・行政・医療関係者 41人
令和5年7月2日	社会福祉会館	障害支援区分認定にかかる医師意見書記載説明会	医療機関職員 45人
令和5年7月5日	発達障害支援センター	金沢工業大学大学院生実習	学生・教員 8人
令和5年7月30日	白山市福祉ふれあいセンター	白山市発達相談センターシンポジウム	福祉関係機関・家族等 119人
令和5年8月7日	発達障害支援センター	養護教員健康相談活動事例検討会	高校養護教諭 22人
令和5年8月23日	発達障害支援センター	県庁インターンシップ見学	学生 2人
令和5年8月25日	発達障害支援センター	金沢工業大学臨床心理学部 実習	学生・教員 9人
令和5年9月29日	いしかわ特別支援学校	いしかわ特別支援学校保護者会研修会	保護者・教員等 40人
令和5年10月11日	白山市松任学習センター	北陸三県人権問題研究会	人権擁護委員等 80人
令和5年10月23日	発達障害支援センター	金沢医科大学看護学部学生 実習	学生・教員 14人
令和5年12月4日	龍谷高校	龍谷高校職員研修会	高校教諭 38人
令和5年12月27日	発達障害支援センター	養護教員健康相談活動事例検討会	高校養護教諭 18人
令和6年1月31日	能美市ふれあいプラザ	能美市心配ごと相談所相談員研修会	能美市社会福祉協議会職員・心配ごと相談員 30人
令和6年3月3日	石川県女性センター	石川県女性薬剤師会研修会	薬剤師 19人

Ⅲ 資 料

1 精神保健福祉相談状況(電話・来所・訪問)

(1) 相談区分別相談件数

区分		合計 (延)	老人精 神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健 康づくり	うつ・う つ状態	摂食障害	てんかん	その他
保健所														
南加賀 保健福 祉セン ター	電話	1,723	111	1,226	65	11	24	1	50	123	48	14	0	50
	メール	24	0	20	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0
	来所(実58)	81	7	38	3	0	1	0	9	17	3	1	0	2
	訪問(実47)	184	15	141	6	0	1	0	4	9	8	0	0	0
石川中 央保健 福祉セン ター	電話	1,509	17	487	88	0	3	0	21	524	117	0	0	252
	メール	16	0	9	1	0	0	0	0	2	2	0	0	2
	来所(実75)	124	3	43	5	0	1	0	1	49	10	0	0	12
	訪問(実82)	293	4	155	11	0	0	0	6	27	37	0	0	53
能登中 部保健 福祉セン ター	電話	718	26	219	24	0	1	1	0	230	8	0	0	209
	メール	9	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6
	来所(実27)	57	1	12	0	0	0	0	0	31	0	0	0	13
	訪問(実32)	66	1	32	4	0	0	0	0	9	0	0	0	20
能登北 部保健 福祉セン ター	電話	1,036	31	699	99	13	6	0	20	56	96	0	0	16
	メール	4	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	来所(実132)	210	27	87	13	1	2	0	5	47	26	0	0	2
	訪問(実31)	62	1	35	7	0	0	0	0	8	11	0	0	0
金沢市 福祉健 康セン ター	電話	5,041	95	2,689	124	10	3	1	54	694	23	0	0	1,348
	メール	24	0	11	0	0	0	0	0	6	0	0	0	7
	来所(実288)	524	11	184	9	0	0	1	21	177	13	0	0	108
	訪問(実180)	524	13	323	17	14	0	0	1	39	1	11	1	104
保健所 計	電話	10,027	280	5,320	400	34	37	3	145	1,627	292	14	0	1,875
	メール	77	0	45	1	2	0	0	1	11	2	0	0	15
	来所(実580)	996	49	364	30	1	4	1	36	321	52	1	0	137
	訪問(実372)	1,129	34	686	45	14	1	0	11	92	57	11	1	177
こころの 健康セン ター	電話	10,452	57	3,413	63	16	49	4	134	5,636	299	5	3	773
	メール	31	1	6	0	1	3	0	0	13	1	0	0	6
	来所(実154)	699	0	36	19	15	55	0	61	458	33	2	0	20
	訪問(実21)	39	0	5	0	0	0	0	0	34	0	0	0	0

(2)年齢区分別相談件数

保健所		区分	合計	0~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~	不明
南加賀保健福祉センター	電話 延		1,723	77	125	250	410	477	175	114	95
	来所 実		58	9	9	12	10	10	4	4	0
		延	81	13	13	19	15	10	5	6	0
	訪問 実		47	2	5	10	11	10	5	4	0
		延	184	4	18	42	33	41	31	15	0
石川中央保健福祉センター	電話 延		1,509	67	141	205	237	226	131	98	404
	来所 実		75	9	8	11	20	11	6	5	5
		延	124	13	15	22	24	28	10	6	6
	訪問 実		82	8	13	13	10	18	7	10	3
		延	293	20	37	63	59	54	16	40	4
能登中部保健福祉センター	電話 延		718	16	65	27	161	202	110	60	77
	来所 実		27	0	4	1	8	6	6	1	1
		延	57	0	8	6	19	11	11	1	1
	訪問 実		32	1	2	1	9	8	6	5	0
		延	66	1	9	2	11	21	14	8	0
能登北部保健福祉センター	電話 延		1,036	18	66	96	256	169	257	158	16
	来所 実		132	6	10	11	23	21	24	35	2
		延	210	6	18	17	45	33	36	52	3
	訪問 実		31	0	4	3	9	5	6	4	0
		延	62	0	4	6	13	14	14	11	0
金沢市福祉健康センター	電話 延		5,041	171	392	1321	927	1258	306	492	174
	来所 実		288	24	46	61	55	45	26	27	4
		延	524	46	115	94	83	74	48	60	4
	訪問 実		180	4	14	21	44	46	19	31	1
		延	524	9	43	62	117	151	50	91	1
保健所計	電話 延		10,027	349	789	1,899	1,991	2,332	979	922	766
	来所 実		580	48	77	96	116	93	66	72	12
		延	996	78	169	158	186	156	110	125	14
	訪問 実		372	15	38	48	83	87	43	54	4
		延	1,129	34	111	175	233	281	125	165	5
こころの健康センター	電話 延		10,452	252	927	1205	1857	1886	1620	211	2494
	来所 実		154	29	43	40	15	16	6	4	1
		延	699	120	185	218	83	63	16	13	1
	訪問 実		21	1	1	0	1	5	0	1	12
		延	39	3	4	0	3	13	0	4	12

(3) 診断別相談件数

区分		合計	F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G40	その他	保留	不明
南加賀保健福祉センター	来所 実	58	1	0	11	9	3	1	0	1	4	0	1	0	0	27
	延	81	1	0	21	12	3	1	0	2	4	0	1	0	0	36
	訪問 実	47	0	1	23	6	2	0	0	1	2	0	0	0	1	11
	延	184	0	4	106	31	7	0	0	2	7	0	0	0	1	26
石川中央保健福祉センター	来所 実	75	0	2	8	19	4	0	0	0	2	0	0	0	29	11
	延	124	0	3	23	29	4	0	0	0	2	0	0	0	51	12
	訪問 実	82	2	1	25	14	4	0	0	1	1	3	0	0	15	16
	延	293	8	9	102	67	7	0	0	4	2	11	0	0	46	37
能登中部保健福祉センター	来所 実	27	1	0	8	4	2	0	0	0	1	0	0	0	0	11
	延	57	5	0	15	4	3	0	0	0	4	0	0	0	0	26
	訪問 実	32	1	3	12	7	2	0	0	0	2	0	0	0	0	5
	延	66	1	6	32	9	3	0	0	0	2	0	0	0	0	13
能登北部保健福祉センター	来所 実	132	17	7	26	14	12	0	0	8	7	0	0	0	30	11
	延	210	22	9	41	30	19	0	0	10	14	0	0	0	50	15
	訪問 実	31	1	3	10	7	1	0	0	3	2	0	0	1	1	2
	延	62	1	7	21	16	1	0	0	3	2	0	0	1	3	7
金沢市福祉健康センター	来所 実	288	3	5	42	38	10	1	2	1	17	2	0	13	0	154
	延	524	8	10	93	80	27	1	13	1	40	4	0	17	0	230
	訪問 実	180	6	8	67	35	8	0	2	1	12	0	0	3	0	38
	延	524	6	41	237	96	19	0	6	6	13	0	0	17	0	83
保健所計	来所 実	580	22	14	95	84	31	2	2	10	31	2	1	13	59	214
	延	996	36	22	193	155	56	2	13	13	64	4	1	17	101	319
	訪問 実	372	10	16	137	69	17	0	2	6	19	3	0	4	17	72
	延	1,129	16	67	498	219	37	0	6	15	26	11	0	18	50	166
こころの健康センター	来所 実	154	0	2	5	16	10	2	3	4	20	1	0	0	50	41
	延	699	0	9	14	99	46	4	10	19	102	15	0	0	174	207
	訪問 実	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	延	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39

※診断名はICD10に準ずる

※こころの健康センターの「その他」は異常なし、非定型精神病、ナルコレプシーを含む

(4) 自殺・ひきこもり区分別相談件数(再掲)

保健所	区分	自殺	ひきこもり						
			10代	20代	30代	40代	50代以上	不明	合計
南加賀保健福祉センター	電話	213	4	3	22	2	4	0	35
	メール	3	0	0	5	0	0	0	5
	来所 実	6	1	0	1	0	1	0	3
	延	8	1	0	1	0	1	0	3
	訪問 実	5	0	0	1	0	0	0	1
	延	23	0	0	2	0	0	0	2
石川中央保健福祉センター	電話	183	19	19	27	29	26	8	128
	メール	6	0	0	2	0	3	0	5
	来所 実	7	1	4	2	5	5	0	17
	延	9	3	9	4	7	7	0	30
	訪問 実	23	1	0	3	3	1	0	8
	訪問 延	66	10	0	25	12	6	0	53
能登中部保健福祉センター	電話	41	3	30	4	32	17	0	86
	メール	0	0	0	0	0	0	0	0
	来所 実	1	0	2	1	3	2	0	8
	延	1	0	5	6	11	5	0	27
	訪問 実	3	0	1	0	2	1	0	4
	訪問 延	4	0	8	0	2	9	0	19
能登北部保健福祉センター	電話	55	11	1	2	5	60	6	85
	メール	0	0	0	1	0	0	0	1
	来所 実	4	0	1	1	2	2	0	6
	延	11	0	1	1	2	3	0	7
	訪問 実	1	0	1	0	2	3	0	6
	訪問 延	4	0	1	0	2	11	0	14
金沢市福祉健康センター	電話	316	26	32	58	37	41	3	197
	メール	1	0	1	0	1	0	3	5
	来所 実	14	5	13	8	7	3	0	36
	延	31	18	53	11	11	5	0	98
	訪問 実	12	1	2	4	4	6	0	17
	延	51	1	12	5	8	25	0	51
保健所計	電話	808	63	85	113	105	148	17	531
	メール	10	0	1	8	1	3	3	16
	来所 実	32	7	20	13	17	13	0	70
	延	60	22	68	23	31	21	0	165
	訪問 実	44	2	4	8	11	11	0	36
	延	148	11	21	32	24	51	0	139
こころの健康センター	電話	160	22	95	19	6	3	50	195
	メール	3	0	0	0	0	0	1	1
	来所 実	11	4	21	19	2	0	1	47
	延	48	51	129	148	8	0	1	337
	訪問 実	12	0	0	0	0	0	0	0
	延	12	0	0	0	0	0	0	0

2 普及啓発活動

保健所	区分	講演会			ゲートキーパー養成等事業及び若い世代の心の健康作り事業			
	内容	人数	内容	対象	回数	人数	内容	対象
南加賀保健福祉センター			なし		2	12	ゲートキーパー養成研修	金沢大学学生
					2	20	ゲートキーパー養成研修	小松大学学生
					1	7	ゲートキーパー養成研修	金城大学学生
石川中央保健福祉センター	16	若い世代のいのちを支える研修会	管内の学校、市町、その他支援機関の担当者	1	70	ゲートキーパー養成研修	かほく市民	
				3	102	ゲートキーパー養成講座	県立看護大学学生	
				2	17	ゲートキーパー養成講座	金沢医科大学学生	
				1	9	ゲートキーパー養成講座	金城大学学生	
能登中部保健福祉センター			なし			なし		
能登北部保健福祉センター			なし		1	31	自殺対策研修 ～ゲートキーパー養成講座～	市職員
					1	4	ピアサポーターとの交流会 ゲートキーパー養成講座	金沢医科大学学生
					1	8	ゲートキーパー養成講座	県立看護大学学生
					1	4	ゲートキーパー養成講座	金沢大学学生
金沢市福祉健康センター	会場 64名 視聴 279回	115	こころの健康づくり講座	女子短期大学生	1	115	ゲートキーパー研修	女子短期大学生
		733	こころの健康づくり講座	大学生	3	219	こころの健康づくり講座 (ゲートキーパー研修含む)	大学生
		278	こころの健康づくり講座	大学生(美大)	4	278	ゲートキーパー研修	大学生
		40	こころの健康づくり講座	市民	2	514	ゲートキーパー研修	大学生
		70	こころの健康づくり講座	大学生(金大)	3	43	ゲートキーパー研修	市民
		31	こころの健康づくり講座	中学校教員	3	49	ゲートキーパー研修	市職員
		10	地域ネットワーク会議	包括職員 ケアマネジャー	1	40	こころの健康づくり講座 (ゲートキーパー研修含む)	市職員
		16	こころの健康づくり講座	地域住民	2	41	ゲートキーパー研修	専門学生
			ひきこもり講演会	市民	13	111	ゲートキーパー研修	大学生
		2			31	ゲートキーパー研修	中学校教員	
		1			16	ゲートキーパー研修	地域住民	
		1			50	こころの健康づくり講座 (ゲートキーパー研修含む)	団体職員	
		31	地域こころの健康づくり研修会	額地区住民	1	31	ゲートキーパー研修	地域住民
		22	地域こころの健康づくり研修会	芳斉地区住民	1	22	ゲートキーパー研修	芳斉地区住民
40	こころの健康づくり講座	市職員	1	25	ゲートキーパー研修	ボランティア大学受講者		
25	みんなのメンタルヘルス	ボランティア大学校受講者	1	162	ゲートキーパー研修	高砂大学校大学院OB		
162	こころの健康づくり講座	高砂大学校大学院OB						

保健所	自殺予防普及啓発事業(街頭キャンペーン、ラジオ、広報等)	
	回数	
南加賀保健福祉センター	3	街頭キャンペーン
石川中央保健福祉センター	1	街頭キャンペーン
能登中部保健福祉センター	2	街頭キャンペーン
	2	(ラジオ)自殺予防週間、自殺対策強化月間について
能登北部保健福祉センター	1	街頭キャンペーン
	1	(ホームページ)自殺予防週間の普及啓発記事
金沢市福祉健康センター	4	(ラジオ)ひきこもりについて、こころの健康づくり、アルコール関連問題、自殺対策強化月間
	2	(Facebook)自殺予防週間、自殺対策強化月間

3 関係機関・団体との連携

保健所	機関名	支援内容	回数
南加賀保健福祉センター	小松市役所	小松市くらし安心ネットワーク協議会障害者あんしん部会	1
	小松市役所	小松市くらし安心ネットワーク協議会いのちと心の部会	1
	小松市役所	精神障害者等地域生活支援検討部会	3
	小松市社会福祉協議会	小松市生活困窮者自立支援調整会議	1
	加賀市役所	加賀市じりつ支援協議会計画策定ワーキング	1
	加賀市役所	加賀市地域移行支援会議	3
	加賀市役所	精神事例検討会	4
	能美市役所	精神事例検討会	3
	メンボラTOMOの会	メンボラTOMOの会役員会	2
	金沢保護観察所	小松能美地区地域支援ネットワークに関する会議	1
	金沢保護観察所	精神事例検討会	3
	精神科病院	精神事例検討会	5
	石川県地域生活定着支援センター	精神事例検討会	1
	相談支援事業所	精神事例検討会	1
	石川中央保健福祉センター	白山市	地域生活部会
白山市		障害者計画策定委員会	4
野々市市		虐待防止協議会、障害者虐待防止部会	2
野々市市		障害者基本計画策定委員会	2
野々市市		ケア会議	2
かほく市		自立支援協議会、運営会議	2
かほく市		障害者福祉計画委員会	2
かほく市		高齢者及び障害者虐待防止協議会	1
かほく市		自殺対策推進委員会	2
かほく市		ケア会議	1
津幡町		自立支援協議会	4
内灘町		自立支援協議会、全体会	3
内灘町		自殺対策計画策定委員会	3
病院		ケア会議	13
金沢保護観察所		ケア会議	7
相談支援事業所	ケア会議	2	
能登中部保健福祉センター	金沢保護観察所	医療観察対象者のケア会議、同行訪問	13
	七尾市・中能登町	七尾市・中能登町地域自立支援協議会	2
	七尾市	事例検討会	3
	中能登町	事例検討会	1
	公立能登総合病院	事例検討会	1
	七尾松原病院	事例検討会	2
	松原病院	事例検討会	1
	七尾市	同行訪問	6
	みそぎ会	総会	1
	能登中部圏域家族連絡会	打合せ、連絡会等	1
	メンタルヘルスボランティア	花の会(総会、研修会等)	1

保健所	機関名	支援内容	回数
能登北部保健福祉センター	奥能登自立支援協議会	子ども関係情報交換会	1
	輪島市	地域ケア会議	2
		同行訪問	11
	珠洲市	自殺対策計画策定の支援	4
	穴水町	同行訪問	1
		穴水健康づくり対策推進協議会・第2期自殺対策計画策定会議	1
	能登町	奥能登自立支援協議会 能登町連絡会議	1
		能登町精神保健福祉連絡会議	1
		同行訪問	1
	ごちゃまるクリニック	同行訪問	1
	金沢保護観察所	ケア会議	2
	金沢大学附属病院	ケア会議	1
	県立こころの病院	ケア会議	3
	七尾松原病院	ケア会議	4
	公立能登総合病院精神センター	ケア会議	3
	ピアサポート北のと	ケア会議	1
同行訪問		4	
相談支援海と空	ケア会議	1	
断酒会	合同酒害相談	8	
金沢市福祉健康センター	医療機関等	ケア会議	101
	家族会	総会、定例会等	5
	市民活動団体	連携体制の構築、活動支援、情報提供	16
	ボランティアグループ	ボランティア育成支援、ひきこもり長期化防止事業委託	2
	地域活動支援センター	健康教育、連携、情報提供	3
	自治体・市民活動団体	連携、講話、情報交換等	1
	金沢市公共職業安定所	令和5年度金沢障害者雇用連絡会議	1
	金沢保護観察所	ケア会議	8
	県警関係機関等	ネットワーク連絡会	3
	金沢市	自殺防止対策庁内相談担当者連絡会	1
	金沢市	地域精神保健福祉連絡会	1

4 集団活動

(1) 当事者活動

保健所名	回数	実人数	延人数	内 容
南加賀保健福祉センター				ひきこもり社会参加復帰事業(社会復帰支援教室) 近況話し合い、カードゲーム、ボードゲーム、 ゲーム、調理、手工芸、スポーツ、外出 等
石川中央保健福祉センター				
能登中部保健福祉センター	6	2	10	
能登北部保健福祉センター	7	1	7	
金沢市福祉健康センター				

(2) 家族教室

保健所名	回数	実人数	延人数	内 容
南加賀保健福祉センター	1	17	17	ひきこもり家族交流会、講演会
	2	21	21	依存症家族交流会、講演会
石川中央保健福祉センター	8	7	12	ひきこもり家族交流会(個別相談、座談会)
	1	8	8	依存症家族教室(アルコール、ギャンブル、ゲーム等)
	1	15	15	うつ病家族教室
能登中部保健福祉センター	7	5	15	ひきこもり家族交流会
	1	11	11	アルコール関連問題家族教室
	1	11	11	うつ病家族教室
能登北部保健福祉センター	1	7	7	ひきこもり家族交流会(座談会、情報交換、意見交換)
金沢市福祉健康センター				

5 こころの健康センター貸出しDVD一覧

分類	番号	題名	(時間)	対象者	内容
児童	2113	障害のある子ども達に読書の楽しみを マルチメディアDAISY書籍 CD 1	284	児童	「ゴーゴーもるもくん」「恐竜あいうえお」 「まちをつくるじどうしゃ」他5編
	2114	障害のある子ども達に読書の楽しみを マルチメディアDAISY書籍 CD 3	336	児童	日本の昔話17編、他2編
	2115	「交通事故で家族を亡くした子どもの支 援」に関するシンポジウム基調講演 子ど もと死 ―その理解と支援―	52	一般	制作・著作：内閣府
こころの健康	2234	自殺対策マニュアル		一般	地域や職場等の現場で自殺対策に取り組む従事者のために
	2235	統合失調症の人の回復力を高める①回復力 を高める接し方	95	一般	統合失調症の症状、治療、再発予防について基 本的な講義
	2236	統合失調症の人の回復力を高める②ドラマ で学ぶ回復力を高める会話	85	一般	ご本人との具体的なコミュニケーションについ て実際のやりかたを学ぶ
	2237	統合失調症の人の回復力を高める③家族の SSTの進め方	45	一般	病気のご本人とのよりよいコミュニケーション について家族が集まって考える。
	2238	こころの病気を学ぶ授業～統合失調症～		一般	2008年普及活動及び授業実施報告
	2239	眠れなくなった父さんヒツジ	30	一般	うつ病の人の94%に「睡眠障害」があると報告 されています。
	2240	こころのサインに気づいたら ～悩んでいる人にあるあなたができること～	11	一般	悩んでいる人との向き合い方について。
	2241	こころのサインに気づいたら ～悩んでいる人との向き合い方について～	172	一般	悩んでいる人との向き合い方について。
	2242	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～	91	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2243	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～(被災地対応編)	152	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2244	こころのサインに気づいたら ～ゲートキーパー養成研修用DVD～(講義編・資料編)	91	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2245	スッキリ睡眠でイキイキと	36	一般	睡眠の基礎知識について。
	2246	睡眠保健指導No. 1	23	保健指導 者	睡眠保健指導の意義と重要性について。
	2247	睡眠保健指導No. 2	25	保健指導 者	睡眠保健指導の具体的な方法について。
	2248	こころのサインに気づいたら～ゲートキーパー 養成研修用DVD～(地域対応編・心得編)	144	一般	ゲートキーパー養成研修用DVD
	2249	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第1巻 うつ病って何だろう	70	一般	うつ病と付き合っていくために知っておきたい 大切な事柄について。
	2250	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第2巻 うつと生きる	104	一般	うつとともに生きてきたある会社員の17年間の 葛藤の軌跡。
2251	NHK厚生文化事業団福祉ビデオシリーズ うつ病 第3巻 ふたたび職場へ	82	一般	神奈川県川崎市にある武田病院のリワークプロ グラムを紹介。	

分類	番号	題名	(時間分)	対象者	内容
こころの健康	2252	平成19年度 いしかわ夢広場 3	59	児童	平成19年度に放送した「心の教育」ラジオ広報番組「いしかわ夢広場」の中から、子どもたちに親しみやすいお話を6編収録。
	2254	スポーツ祭東京2013精神障害者フットサル		一般	精神障害者のフットサル大会。
	2255	石川県ゲートキーパーDVDかけがえのない命をまもるためにあなたもゲートキーパー	18	一般	ゲートキーパーの役割について。
	2256	うつ病者の社会的支援のための客観的指標・運動プログラムの開発～医療モデルからソーシャルモデルへ～	39	専門職	立教大学コミュニティ福祉研究所の研究記録。
	2257	ひきこもりからの回復 全三巻	236	一般	「ひきこもり」の理解と回復の支援について
精神保健	2446	コートに輝く笑顔と汗	35	一般	精神障害者バレーボール全国大会の様態を紹介。
	2447	ピアカウンセリングセミナー基礎編シリーズ	284	一般	ピアカウンセリングを共に学ぶ仲間づくり。
	2453～2456	N(ネガティブ)からP(ポジティブ)へのすすめ～東尋坊からのメッセージ～(パート1～9)	101	一般	人生相談を受けた時に会話をした内容。①10分②9分③15分④13分⑤15分⑥13分⑦9分⑧14分⑨3分
	2457	摂食障害者の自助・ピアサポートグループNABA 活動紹介映像 映像版「いいかげんに生きよう」	20	一般	活動内容や摂食障害を経験したメンバーのメッセージなど。
	980	摂食障害 理解と回復のために	203	一般	第1巻 摂食障害かなと思ったら(53分) 第2巻 家族・支援者の皆さんへ(60分) 第3巻 経験者に聞く 回復までの道のり(90分)
依存症関連	2538	出所後の道しるべ ～薬物を使わない新たな人生に向かって～	62	一般	ダルクの紹介と出所後の流れについて。
	2539	ダメ。ゼッタイ。薬物乱用は脳を破壊する!	15	一般	薬物乱用防止の普及啓発。
	2540	“依存症”からの回復 第1巻 “依存症”とは何か	59	一般	依存症の正しい理解について。
	2541	“依存症”からの回復 第2巻回復への道	67	一般	依存症からの回復のために必要な支援について
	2542	“依存症”からの回復 第3巻家族を支える	63	一般	家族が陥りがちな悪循環の構造を読み解き、回復への道を探る。
	2543	あなたの大切な人とお酒の関係 アルコール依存症の理解と対応	24	一般	アルコール依存症の理解とその対応について(保健所等での相談対応の手法等)
	2544	アルコール依存症に対する家族の効果的な対応の仕方	64	一般	アルコール依存症に対する家族の対応について。

分類	番号	題名	(分)時間	対象者	内容
心理・面接技法	2635	ひきこもり完全脱出マニュアル 第3講 思春期対応編 精神的症状とひきこもり	45	一般	強迫性障害のお子さんを抱えた家族を事例に、ひきこもりに多い各種精神症状とその対応について、再現ドラマをもちこみながら斉藤環氏が解説。
	2636	ひきこもり①ひきこもりに対する正しい理解	7	一般	2003年から2004年にかけてNHKで放送された『ひきこもりサポートキャンペーン』の内容をもとに制作された。
	2637	ひきこもり②支援の実践にあたって	43	一般	同上
	2638	ひきこもり③検証・支援現場～民間編～	39	一般	同上
	2639	ひきこもり④検証・支援現場～公的機関編～	35	一般	同上
	2640	実録・家族療法1巻「心理教育アプローチ」に基づく家族面接	61	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
	2641	実録・家族療法2巻「力動的精神療法」に基づく家族面接	68	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
	2642	実録・家族療法3巻「システムアプローチ」に基づく家族面接	872	一般	3人のセラピストによる家族面接ドキュメント
2644	認知行動療法 べてる式	95	一般	べてるの家の幅広い活動を（認知行動療法）という視点から切り取って紹介。	